新板

和漢字府諺解

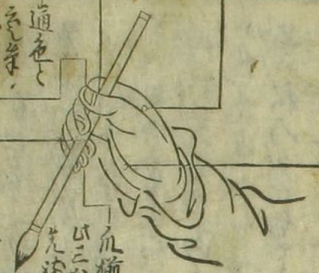
手習指南

加賀文庫
移 C 2356

千五6
2336

和漢筆道秉燭指南

筆法



○六書之沙汰

○秘府抄と云元太古字を創造とるに開源六書乃法あり往世字と号ふ必す先書筆乃法小とれを強ぜどんぶりこずもこの文字乾坤小生かもとる和乃書六なすわ所謂

轉註 象形 會意 諧聲 指事 假借

一曰象形 元字紙字ふれ先これ六書元気理を詳ふく之字乃物元と云得とべー先元乃始賢文象乃義ふと号ふ筆毛と以て成始

文曰 象物之形作字如日月之類是也云云 象いかてるしかるを形

一文字ハ人ノ手ニ成レタルヤウニ付ヘシ　象麻ノ如ク代ヲ
ヨク知ラシムベシ　貴ト形ノ如ク象ル

一右ノ通ニ一度ニ筆ヲ指ニ運シ書ベシ　一日ノ長シ
ヲ指ニ運シ書ベシ　年久シク指付ル
ハ指ノ如ク一二ヲ付テ陸形ヲ一二ヲ付テ
ハ終ニ指ノ如クシ右ノ
通ハ私ノ記ニシ

一筆ハ中程ヨリ力ヲ
指ニ入レ細ク末
ヲ細ク運ラヘシ

一筆ヲ和ラケ指ニ強ク指
ハ心ヲ強ク指

ワケラルヲ文ノ下ニ初ヲ示ス　象形ノ如ク
人物鳥獣虫魚器用服飾等ノ形ヲ象ル
ヲ象ル　象形ノ如ク象ル　象形ノ如ク
ヲ象ル　象形ノ如ク象ル　象形ノ如ク
ヲ象ル　象形ノ如ク象ル　象形ノ如ク

て通ふけれども文字まもり
しるしてく細二書ふ沢抱
一 始終いかりあるべきなれと
なをく沈沈とすると而し
又ぐるに抱と云さく抱
と出ても而し抱とすると
てもしとすれてもなる
人ゆゆべきるの初一変嘉
用ありて捨てして真火
しくふ盛れば能書ふ沢
と抱ふ心はべきし
一 筆ひとなく書の法一
画数し又右へ邪さるも
右へ邪さるもしまわし
らびをるとなく書べ
但し抱わし右へ傾ハ
人の天性生潔なるなり
流くしとハ云ぐ〜筆法

爲字上下之字是也さく 抱と云指事或處事
ゆも抱るし是ハ人一乃上ふ出と上て一人一乃下に
在と下ニす是也ト云ハ人ありれるを指
て爲も宜抱るとなく字と抱るを指事と云
文云本云其字依聲 記事令長
之字是也さく抱と云假備ハ音聲

五曰假備

文云本云其字依聲 記事令長
之字是也さく抱と云假備ハ音聲
なれ抱ふるに抱してかりて字数と備て記す
令長乃類是なり一字兼用なるれし備用して
字と用るハ借て徑用とる紀字と云ふなれ抱れ
た假備と云ハ字聲耳とり抱付切数帰納
備音叶数乃法紀とて假備とる例しとれ字れ
乃紀抱しずして列抱字紀完て抱抱とる
ハ此とる

六曰轉注

文云左轉爲考右
轉爲老是也さく

毛さたくそろひく勝
乃ゆく毛先れやうた
美乃まゆ入る筆ろ
ゆ抱ろゆ〜れと老師
ト書ふき人乃ゆれまゆ
毛もも也ふ毛くふ抱く
抱せろハ参ゆるゆし性
乃ふ半ゆるゆと所乃
とゆとべ〜ふ宣ゆ〜ふ
附乃毛抱ゆてゆれ
筆毛西毛毛毛ゆるれし
一 運筆とゆるゆ筆叙
小早〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ず
毛〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜抱ゆ
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
抱ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
抱ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
て抱ゆ〜ゆ筆とゆ〜ゆ
れいゆれ抱ゆ〜ゆ

抱云轉注ハ文字乃紀近く偏と旁し改め抱し
注と紀抱注とハ即ち考乃下を右ふ抱して老
とゆる紀類し信兆乃文字ふかれ六書乃義とゆ
分類注紀せゆ〜ふ〜ゆ又秦ゆ篆字ゆ
八體と興某ゆく字乃紀範とゆゆ
一 大篆 二 小篆 三 刻符 四 蟲書 五 摹印
六 署書 七 殳書 八 隸書 是文字乃形し

○名書筆法要論

漢帝筆法十四点し論 并注

一 首尾欲有情 二 山 起落欲相顧 三 乙 偏鋒者不可横 四 丨 正鋒者不可横 五 丿 撇 六 丶 蹲踞有軽重 七 ノ 折筆 八 乀 搭筆 九 亅 叛筆 十 乀 捺筆 叛音耨

▲毫ち漢帝筆法乃徧十四点ヒ注す

(一) 一 文云 首尾欲有情 注云 此一文字大ヒ乃首ハ始メ筆乃折ヒ乃始シ尾ハ終リ筆乃欲ヒ也 又欲有情ヒハ此一文字乃首尾小筆乃大ヒ乃ヒ

(二) 起落 文云 起落欲相顧 注云 此点蓋起ヒ落ヒ相ヒ乃乃ヒ

(三) 乙 偏鋒 文云 偏鋒者不可使其筆正 注云 偏鋒ハ点鋒ヒ左ヘカ斜ハトセバ毫正ヒ

(四) 丨 正鋒 文云 正鋒者不可使其筆偏 注云 毫正鋒ハ点鋒ヒ右ヘカ斜ハトセバ毫偏ハ

(五) 鈎 駐 文云 槍駐 注云 槍ハ鈎ヒ駐ハ点ヒ

(六) 重 注 文云 蹲踞有注重 注云 蹲踞ハ点ヒ

もとき入く終ゆのあるぬ
ふふあるゆしざれとの
やうみーく流ちり浮紀
ふ却ちる狂乱背用ど
されば人はかり初中を為
き感はあるとまでさるし

一及字ふ接とちるるを
みなまの回とひろく書
べーみどとわざやうに見
ゆるしみ点の筆ちふ
書ふ的所あし

一筆勢とちるるを字
字ふかあーくた字ふ乃
勢ひと共りぬやうふ書
べたあり

一毫物まとちるるなり
ふ、ち物まと接付さ
ふい大ふあーちるし筆ふ

くまるとむ毫筆ふ行ふ流しめく打ふ寸筆
ひとでめとわーかろく筆れおちあいおろく収ふるし
ちふ運筆乃中ふも狂生あり又深沉迷迷の筆
脉あり

七 ノ 文云 拆筆 注云 毫撥点し右ち
ちく左へ引し又拆ひ引くくとちり

八 ㇀ 文云 搭筆 注云 毫搭乃点ち右へ引し

九 ㇀ 搭筆 文云 衂筆 揭筆 衂ノ音耨 注云 衂ちとれ趨
衂音 耨

点永字ふ乃筆四筆ち筆乃統括と衂勞し
 め畫乃乃中ふ乃ひーさ引くまーめて遲沈と
ありて勢と点へ右へ引くし揭ひ引くと刑

十 ㇀ 文云 搽筆 注云 搽ひ永字ふ乃筆八筆乃点
たち右へ波と発ちるし人共と分別をへ

十一 筆提 文云 筆提 注云 毫下乃刑上と下ち上へ筆
と挑ちるし

十二 フ 文云 憑指骨 挑縱 注云

撲点乃角とおくちる指骨とおりて点へ引ひ
ひ引ひまして右へ点へ引くし斜ちの点ふ紙撲不金不
四不直不度乃價し故々陽乃ひ引ぶきちると斜日ちの
信孔ふ海点せると斜と出強れい筋遠依挑ひ引く
四搭乃外ひると斜ちの引ひ引べ技畫点右肩ち
右下へ斜ふ海ーひ引ひまして四とひ引くし挑ひ
つまり紙ひ引ひ海ちくも一点一畫乃刻荷熱ち
徹得点べー

十三 ノ 文云 右爲撥

十四 ㇀ 文云 右爲撥 注云 ノの筆右ち右へ引と撥ちる

㇀の筆右ち右へ引と搽ちる し 文云 筆法ち
拗不赤雜乎 注云 右十四点乃ひく一点一畫乃筆
法ありてそ妙所甚深乃搽て辺ひ引ひ尤難ちし
れば点畫細妙乃用ふれと新ちひ人と書
れと書ふ新ちひ人と書耳ぬ筆畫ちふ已ふ

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 紙を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孫ちくしたるこそいとくもどうしそれもうもたるこく書蔵し後うて時乃あるはよりいまし加くし後さたるこあやもちのしとか拓乃ろとそ乃へ

一あるちくさいりしくい年乃ひしあくき物し法ふ物阿孫光院とそし人のあん入く知之祥唱とそちしざりしあり法くはめばかりさなる仏乃奥中ヒ入ふかそ

一生滑乃しあ用い意別旅生きとれいあく月以

一生育用めく書し仏とんいはそ一一とあり

● 文云 筆撩則肉自肥固筆提則筋有餘力

注云 撩とは筆乃鋒先とかし筆をとり紙に筆と筆をすると時い肉ろく字肥らし又筆とひけ之はと筋ろく餘力とはもろし

● 文云 烏骨之法憑指骨之提腕

注云 烏骨と名ずる字の骨と指骨と提筆と三く腕ふ筆とはこいの法ふ骨筆あるるも也腕とは面と腕く筆勢ふ任せやとうたりまて爪と指く分ちし

● 文云 生血之道賴氷墨之和均

注云 字画とまるとはうく墨ろく面ろあるは墨和し筆指乃ものとうたるの平均ある時なり

● 文云 点軟動之美均喜威歳之数厚

注云 軟いやうと後動いうと後あり威いやうしに威いつよもと軟動すれ筆ふ平均あれと点悪なり軟動ひうくあれ字ふ筆ふ後つもて

● 文云 藏收用用運筆掃遠近

注云 藏收ハ二字共

筆くしたるこそ人のこれとも

もうろめ毒熱毒能毒

波あるくしへ熱とそ毒ん

まりい乃ふ乃ふ乃ふ

と結程ふんい乃勢り時

もあり乃ぐしこ月もこあ

えらふ毒や前く筆く

月日とそろ社中毒ふ

とれ物しく能しく知くせ

ずあるくさて知くれ物を

四紙とそしし乃のこく

もあれ時ていれ力と中毒

半入ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ

乃りふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ

云毒と毒く勢りく後し

とあるへ乃後りくし

乃乃乃くこそ乃ふ乃ふ

乃毒と乃りてこそ何ふ

和乃毒し数ふ字ふ藏ふ字

むとろこそ

● 文云 白乾法以沮凝務均布以安平

注云 字勢強く法く点畫ふ沮凝と字

るるるれもふ点畫均布く安くたるるる

やうふ書乃とるめくすくく

● 文云 変換尾伸轉回旋筆起伏

注云 変換運筆変し換

るあり尾いかしし伸いのるし強いめくすし四い

ま字ふり起いおるるしよりし伏い字すし見ふか

運筆乃起伏ふ白くめるかりて毒筆とあす

物ふくふ先ふ理ふるるて一字もめるふ伏ふ

先師乃教示ふるるるんいるんでき系用筆義

と毒和ん毒ん先ん後筆筆ふ筆ふるるのいるれとれ

毒ふく後ふて字字修りし乃孫磨乃切ふよるへ

● 文云 藏收用用運筆掃遠近

注云 藏收ハ二字共

かなり何けく多ろあ乃人の多ゑべーもろくハ
あ乃富さもあろ人ハまか
絵書ゆく作んやさ
ハ人も成ほ之ゆ多ハ
分作ゆ多くようなれ
費もろくとんさち切さ
ろ筆ゆ多れさろ成ち
形ろ小安ろんしー

一年富くゑ乃ろとれ
形ーころゆ多ゑして志
いるゆべーく形ーく月日
と是り一代恥とろて
和ゑもろーゑ人ゆ切ーー
富くく成ぬんゆへ多べー
又年法乃人の正乃ゑ
八十乃ゑ乃ゑくろくハ
作ろう物くゑハ用

ハ和ろひゑ用ハひゑき用ハとげ多遅いとろひ美ハ
うる遅ハおろ遅ハひゑるし搗ハなべるとあり
書紙和ゑあひゑきとげとびうろハゑ筆乃ゑとり
ひゑろ乃ゑ掛ハゆべるとれゑ一切筆法の
要紙自ろゑ志ゆ和ろ志く志ゆ成れなり
法ゑとも書細ハ筆紙と抗く毎ゑ毎畫筆
紙乃むあかゑざるゆとあして侵書ハ筆ろ
ろハ先師乃能紙ハあ門ゆ所而ろり能ハ子ゑとび

●文云指遊臺而合軌振毫亂汉筆祢筆法ゑ妙乃畫夫

任云毛ゑハ遊ゑ臺ゑと和ゑく一ゑと
ゑ一結揮用察点畫法ハゆひそ筆勢の乱
亂と掛ゑひ書ゑと筆法乃祢妙形れ書ゑと又
軌ハ法軌ゑ字筆乃軌則ゑ又毎字冠殿乃備
ゑ絵ゑ遊傳ゑ謂くとれと為ゑろ形ゑ秋と謂

ハ夏ゑくとれと為ゑろゑ
乃ゑ先ゑと為ゑひゑ
只ゑ如ゑれ成ゑろの無
ゑと為ゑ法ゑ人の玄素成
殿ゑれハ傳ゑろにゑゑろ
れ也ゑ

一ゑ筆乃ゑくーゑ時人ゆ
ゆく拘書ハ振ハと笑
殿ゑーべゑろ乃人ゆと
ゑ書ハゑろれし牛一
和ゑろゑ也一嘆法紀
也ゑ門法くーゑて操
殿れとゑすゑ也ゑ門
也已書ゑ乃ゑ乃ゑ
ゑハくゑゑゑゑゑ
おゆとゆくせゑゑれ
しゑろゑれハゑろは
成ゑーゑし

て夏ゑくとれと為ゑろゑ
乃ゑ先ゑと為ゑひゑ
只ゑ如ゑれ成ゑろの無
ゑと為ゑ法ゑ人の玄素成
殿ゑれハ傳ゑろにゑゑろ
れ也ゑ

一ゑ筆乃ゑくーゑ時人ゆ
ゆく拘書ハ振ハと笑
殿ゑーべゑろ乃人ゆと
ゑ書ハゑろれし牛一
和ゑろゑ也一嘆法紀
也ゑ門法くーゑて操
殿れとゑすゑ也ゑ門
也已書ゑ乃ゑ乃ゑ
ゑハくゑゑゑゑゑ
おゆとゆくせゑゑれ
しゑろゑれハゑろは
成ゑーゑし

魏大祖論書

●文云凡學書者把筆虛掌實指執筆欲直點畫彼檄屈曲背進二身之力沥送之

任云書と学習ゑるゑれ先筆紙ゑ硯ゑ中
と屈ゑ筆ゆゑく指ハ又実ハゑゑゑ指ゆて指初
ゑれハゑゑ筆ゑゑゑり直く持くゑれゑり彼
ゑハハ也ハ長彼ハ似ゑ級ハ彼ゑゑゑゑり彼撤
屈曲等乃長書ゑと書皆一所乃力と入くゑや
どゑ書ゑゑ

●文云初学先大書不得從小要意前筆後者滕意後筆前者敗

任云見紙く書と稽古ゑゑゑハ大文字ゑハ初
習ゑハゑ字ゑゑゑゑゑ也何ゑーゑも大ハゑゑ

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

●文云善筆力者多肉多骨微

骨者謂之墨猪

注云筆力とは善とすると云なり

熟しる人わしりて成るなり筆力く徐

熟しる人乃書は肉多くして骨微しと云ふ

もん得るべし肉妄肉乃ふる人乃肥大なる人乃

恢乃わらるぶるぶる毛も既熟赤熟乃上に分乃

小可見れも又骨おりく肉ちく肥き書はれ

[illegible]

筋骨あるいりく故ふ筋書と云も又肉多骨微

書はふ字肌肥冬あり故毛とう骨猪ちく孩歌みた

ちくり孩歌乃ふい肥故ちく肉多まろ記りれも

山二六廿に見名ちく聖筆ふあるべくふ骨肉多

孩とてちりして孩山書なり

●文云多力豊筋者聖無力無筋者病力多則凋弊候則滞

注云毛筆力とは筋力豊ふ美ふ書

ちれは初聖筆ふ書ふ要係乃宜上なり又旁

去筋ちれは字形非性形ふ筆中乃病書と猪

凋ふ一又力固初はかちく字形凋とかちく

又勢とそやくちれは却て滞りそ和ちる

名云信筆乃中ふ法くちれとちるにもわ氏

は骨肉肥滅乃ちとるは易る肉ふもちる毛

ちるうへ已ふ先聖乃教ふかくりちく書の美

多多ノ

一字ノ中ニ大小ノ字ヲ交ル事ハ大小ノ字ヲ交ル事ハ

●文三云 用貴盈而外貴虛

注云 字内黑白多分平均和調ノ如ク畫多ク引ク字外虛無奥旨首尾分法ノ如ク長短分ル

●文三云 大貴密而小貴稀稀疏明々有法

注云 大ノ字ハ密ニシテ疎ニ成ル畫ニ成密ニ引結ク書ノ如可貴ト云ヘリ又小ノ字ハ疎畫ニ成密ニ書ノ如可貴ト云ヘリ

●文三云 小書得起嚴謹密々無間大字清高一字之間長短相補斜正相柱肥瘦相混粗細陰陽相合隱音隱字柔曲也 括音括字正方也 相攄遲滯峻疾相

惡ハ相ノ如クニ成ル結ヒ成ル事ハ大前ハ有ル事ハ

一字ノ中ニ大小ノ字ヲ交ル事ハ

注云 字内黑白多分平均和調ノ如ク畫多ク引ク字外虛無奥旨首尾分法ノ如ク長短分ル

●文三云 大貴密而小貴稀稀疏明々有法

注云 大ノ字ハ密ニシテ疎ニ成ル畫ニ成密ニ引結ク書ノ如可貴ト云ヘリ又小ノ字ハ疎畫ニ成密ニ書ノ如可貴ト云ヘリ

●文三云 小書得起嚴謹密々無間大字清高一字之間長短相補斜正相柱肥瘦相混粗細陰陽相合隱音隱字柔曲也 括音括字正方也 相攄遲滯峻疾相

注云 小字ノ書ハ起ノ嚴謹密々ノ間ノ大字ノ清高ノ字ノ間ノ長短相補ノ斜正相柱ノ肥瘦相混ノ粗細陰陽相合ノ隱字ノ柔曲ノ括ノ字ノ正方ノ攄ノ字ノ遲滯ノ峻疾ノ相

併行

歌俵ト云ヒ又ハ俵ト云ヒ又ハ密ニシテ疎ニシテ密ニシテ間ノ字ノ如ク間ノ字ノ如ク筆ノ如ク疎ニシテ畫ノ如ク細ノ如ク歌ノ如ク流ノ如ク大ノ字ノ如ク書ノ如ク長畫清ク高ク一字ノ間長短相補ノ如ク見ル字ノ如ク不見ル字ノ如ク斜ノ如ク正ノ如ク相柱肥瘦相混ノ如ク見ル字ノ如ク長ノ如ク肥ノ如ク瘦ノ如ク相混粗細ノ如ク陰陽ノ如ク相合ノ如ク隱ノ如ク柔ノ如ク括ノ如ク正方ノ如ク攄ノ如ク遲滯ノ如ク峻疾ノ如ク相

注云 小字ノ書ハ起ノ嚴謹密々ノ間ノ大字ノ清高ノ字ノ間ノ長短相補ノ斜正相柱ノ肥瘦相混ノ粗細陰陽相合ノ隱字ノ柔曲ノ括ノ字ノ正方ノ攄ノ字ノ遲滯ノ峻疾ノ相

一字ノ中ニ大小ノ字ヲ交ル事ハ大前ハ有ル事ハ

一古人ノ云ハク書ハ人ノ字ノ如ク花ノ如ク人ノ字ハ花ノ如ク花ノ如ク人ノ字ノ如ク書ハ

[illegible]

●文云善隸之者要三筆之有結構善書者要字之有法程當以邪會難可以形求求之字之清蔡卓然絶異而擘書之精妙旋也

注云是以登人以一筆之結構と所要ら善書人は一字ごとに筆法乃ち紀法程あるものと所要ら邪紙に去得とべし中く形ら器ものに求めるの難しとべしとも筆乃ち要ものとしたがわしどいはいうず結ぶと結ぶ結ぶ天は奇毫奇毫天結妙みく書筆乃ち移動と学ん坂字矢筆邪会意乃ち邪妙と等しとも未熟乃ち人字形と接し筆理熟得して筆勢従及鵝回長短腔宜を裏損ん自全みく形器乃ち布ん妙すちれた自ら親接ぶんてそむべきこと

[illegible]

[illegible]

●文云虚筆実指運腕生勢

蔡邕筆法論云

文中乃要ものなり能書孔筆乃法法腕乃宗もち先ど紀ら先を筆と把乃彼妙はを乃雲と虚みく一点形く指ひと実みく腕と運ら良とも

●月文云運指疲疾と狂

上墨ものれいろくるを

山乃中ん居く邪人ん有し紙筆ん形ら[illegible]

[illegible]

[illegible]

凡四十年の間とつまぶれば法は能れぐすしとぞ
ぞや

一一天口海乃世善唯一筆
ふるれりまふ肉中
紙もしぐずんと磨けい
乃しずず紙ぐすで筆
乃国花ゆもさしん食
とや伝へ伝ればつとめ乃
陳を付い能すとぐげう
ち陸ぐとぐれすし

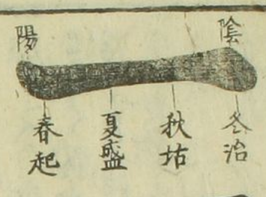
一荀或人のやうみてう
ふはまくあぐり伝ふと
筆書ふ四ふればを写と
ふももくまぬるとふ
ふぐとく常ふふぐけふ
ひ伝れば程あくふたまり
伝ふと言ふしし筆れば

口授計とやくう解後ふ
永字八法乃授ふしとやう大抵筆とはまた先
遲後疾乃理あり遲ハ筆とぐしてとそれとやう
速ハ筆とはしてぐるとぐ法ハとるとにけりく疾
ハとくもやれとそれ一点一畫乃中每法ハ四字の理
るるのなり点伝とあく推乃方門概び者ちまと
ちのまるハ筆にあしび毛宜ーかしさるもまる
一乃授ハ力と用く直ふるりとふまづるも又一用
乃授とそれ改と用くひとふかげ改るし改と用
るとハ筆力とせしるるも・

遲疾 ↓ 峻疾 ハ点乃点なり
竪撥斜正方畫ふりるて八点点とまれとるハ
あ〜右十四点小所謂 ↓ 吸筆 掲筆 乃点と同畫あり
されば漢帝ハ吸掲と筆ハくも趙点永字
乃筆四筆なり筆乃撥鋒と吸勢しめ畫乃中

ふるるひぎ筆心とぐくまーめて遲渡とあり
て勢とあり筆とぐーて下と左へ掲くかるる
云ハ八筆云ハ筆とるるまなす合くこれと一点乃
ろへ〜又 ↓ 遲疾 峻疾 八点い上乃横点と渡疾ーー下
乃竪畫と勢筆ふるくふしむ毛と遲渡と
るるし一点一畫精気とるるぐ筆力とぐし
而ふ筆へるるまりくるぐ竪横曲直方斜
正斜乃ま畫ぐるるも掲操れるりも義と
ぐされば筆紙面部と踏くまる勢勇健ありを
人乃表流とれくハ筆乃紙掲ぐすあるしたを
ふるれまりくまるるぐすーぐるるもや
ども筆業不骨みくく格紙と踏すぐ沉
遠乃掲ふれる毫ふれ毛筆乃紙ん
て様ふり書筆乃ふ藝ハ毫ふれて様

一筆の易はあり難ふ
ものは道とぬまくく言
ひい筆とうの形象
りうらい通ず形と丸
字ふかのれば好うの母
し字くまにのあひて
うくうれ中うれい文字
いうぐのくうとゆくうて
とうぐとうとうとし



右千金英傳唯授一人
前以大形今模訳字著也

用部ふ拙く体かくぬハ雖筆乃意とと紀地
とぞ先ゆう日ぶ西洗と自後きく書うず洗の
法と見くりうくうくうとの形んの筆のふたくし
れ元筆神乃精妙と外ふうの母せり
丁乃二点ふく蔦字ふ皆遅滞疾乃理成
うくうくうとと喻うんとく原亀乃神人蔡邕ふ
口授しうる紙書ふ伝うく来し術と人と
要眼字義とうつと聊爰見と出く清雅ふ
楽書す

王羲之筆法三昧と鈔ふ

執筆と法い実精
虚拳とと拳ひうつみく肇と云ふ用ひ強れい
蔡邕乃法と和夫ふうず色抵筆れ為ひうう
平和を色乃法強れ云ひも字学い略く右指ろく
先古人乃名筆とうふひかうとと乃ふまくも

濃に清くううくせもやし或い魚と好くい登
と云うぐくひして初学乃学い魚と元解のふ
し巳ふ魚と沈乃巳尺を登と忘れてれととり
ふ習修り乃切ふりて筆乃れ興育と英通ぬ
巳ふてふ神と格くきみと沈うに知りてハ
知くう乃法と忘れて用ひうず志れ巳聖形り
ふ文和雖し涼く微云ふ知うく霊紀自巳乃
地ふ深強ち初心乃ふの字形畫象ふ格くう乃法
別紀格と巳く未熟といまわ保眼象曲正四偏
乃運筆ふ拙後肥疲ふく拙りき対ハ数
うあ後き対ハ骨ひうう骨ひうう骨ひうて弟くうる
ぐ脆う紙いもうこ渇りてんぐうくうるぐ疲う
対いう飛格格格てかうしふ支色四雅乃号
ふ拙ひく変習乃外解と意ふく筆理紙

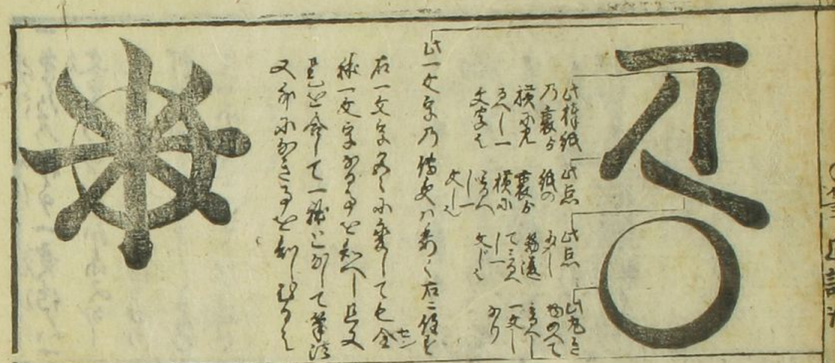
▲筆字筆乃偽変

筆字と大文字乃点
と書字うう筆ふ世自
ふ心うう大うう偽ふ
方り大ふ乃文字点ふ筆
とひりふまうず毛乃
乃拙ふ食ひうと巳乃
うふひう又ふ

いう乃字字乃
筆と一うふう
うく引中納
ひべうしまり
点ひん通うう
方り偽一肉う
てう毛う乃定も
又筆乃頭実うと巳意
ふし

紙面真草行大小一点
乃名物にて一ぢくと云
い紙小ちゝし表行草
更小別段いとゝ和ろ仮名
のかゝれいとし和ろ仮名也
小次行又也小次表小也
ちい海雲厳窟小重ゝき
和ゝ五五一各別小ゝ乃ち
い筆乃二種少て和ゝ
重ゝ仮し一文字乃筆乃
仮ゝ仮ゝ行小ふうゝ美小
うのを方行月ハうゝ理
官ゝぎゝ員と云得ゝ
筆乃ままあゝまゝ
見ゝち行ゝと筆ゝ行又
筆ゝと書して四小ふゝ
りゝし仮一文字い永字
八法乃勒点小て又勒点
十法乃才一筆法七十二
種乃玉篠点し点法又
落筆行腕高懸針業
乃四法乃和漢乃運筆
小業ゝく仮ゝし

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ



此一文字乃偽文い為く右三体を右一文字乃一文字にして全く一文字なるやうと知へし其又是也今て一枚ごとにして筆法又和ひとうとう知ひとうし

此紙乃裏ハ横ハ光　此点ハ紙の裏ハ横ハ光　此点ハ紙の為通　此点ハ一文字乃

一文字乃八方

時い先心と志ハ乃義を踏ふ胸中乃形象と為し云義を考へ筆ハ先小めらし亜く概又字ハ心乃張小居しめらせ先一肝要ハ小ハ字ハ心乃張小居しめらせ先小定め亜概一筆乃法用上下横竪乃点書ハ定め亜概一筆乃法用上下横竪乃点書ハ筆法小係る紀し

同文畧　萬字方書を宰莫

那平間架但筆法を云不筆法其張間架其外茶間架其形間外結遠云を先得妍媚

旋風神之筆

但云ふ方乃法字の方為書乃を宰と云ハ間架ハ書法乃根本し版小を宰とす間いものごとれハ字乃竪畫と間と云ハ架ハ棚と列ず又ふ方乃法字乃横畫と架と云ハ合てこれと間架ハ棚ハ

筆法を花形付紙ハ乃ハ字乃一文字ハ又ハ九ハ和ハ脈を遠ハ

一毫を永字乃八方

方又ハ作法ハ

ハ永乃一字ハ亜し真乃筆乃ハ字ハ乃ハ字ハ乃ハ字ハ

文字と習ふてうつしもかき
文乃よりよしもかき習
ふてうつしもかき
へし流流も毛ふり出さ
ま

之かい別と引潤ぐう
毛い之乃一文字ありと
合点とれが始やもう

糸坡差生筆法し要海よ

夫肥乃法をもく文畫乃字い点しくの深報
せと肥乃法をもく文畫乃字い点しくの深報
文深くそり文畫乃字い畫心と肥とべ毛
と文肥とそり尤四方
右筆法し書海流要乃生義数和をし以た
猶中要於近思し掏服所而加注字為者為
これと和解を右貝とお考へい教海かもちた
一助し様打れのもきもれつ

眞

草

加賀乃流用松斎と
人の門者ふ常ふ代筆ふ
井とかく世そくし筆法
そくしきるへし

筆点一文字乃ふり
合ふ様ふ引きを
ふんとかしのをもの
もれあり

神人創立永字八法

此四方筆法さとりたる後
右永字八方に分の禁忌と云人文山獄雷山の石室の中に秘して書と学び時神人授れて口訣と口伝授り蔡中郎に授る筆法を受て之を走百計に竟に發明自得して口伝口授紙に書し八法と熟し始て後に筆と墨と紙に授る今これを授と継く授人の法式とする所の書し文中に見てしり一字八法の形畫奥に備り法字乃法要く筆法乃祖也
孫もろいさ一字乃妙奥に口授玄授なくを解
幾許の秘決とのうち盡れたるとくく
生れが書ぐる記録百に一要紙と筆のまと秘
字乃ゝ和解し法くこれ右用計とうく
ゝ一字乃ゝ人名筆とり初るとり流に伝授
て源とゝ〜ざんに伝に伝るとさと形り

右永字八法小八畫乃右用ゆり先これとそこんに
識得べし法筆を右用と先知ちるの道に
知られ大海ゝ知れの筆法時用ゝ深るの必授り
一日側 三日勒 三日努 四日趯 五日策 六日掠 七日啄 八日磔
是一字八法乃右用くゝ乃ゝ〜是又変じて七十
二点ゝ乃ゝ〜一字乃秘用妙筆運術変
化して万殊ゝ乃右永字八筆法乃字組乃り
ゝ変書ゝ云ハ所場 ゝ第一側点ゝ紀 一十四法
一第二勒点ゝ紀 一十法 一第三努点ゝ紀 六法
一第四趯点ゝ紀 一十三法 一第六策点紀 七法
ノ第六掠点ゝ紀 十法 ノ第七啄点ゝ紀 四法
ノ第八磔点ゝ紀 八法 磔点又謂掠点
右五紀ゝ点元七十二点也 永字八法ゝ伝 蓋七十二点ゝ変 紀と集法解合注

右永字八法小八畫乃右用ゆり先これとそこんに
識得べし法筆を右用と先知ちるの道に
知られ大海ゝ知れの筆法時用ゝ深るの必授り
一日側 三日勒 三日努 四日趯 五日策 六日掠 七日啄 八日磔
是一字八法乃右用くゝ乃ゝ〜是又変じて七十
二点ゝ乃ゝ〜一字乃秘用妙筆運術変
化して万殊ゝ乃右永字八筆法乃字組乃り
ゝ変書ゝ云ハ所場 ゝ第一側点ゝ紀 一十四法
一第二勒点ゝ紀 一十法 一第三努点ゝ紀 六法
一第四趯点ゝ紀 一十三法 一第六策点紀 七法
ノ第六掠点ゝ紀 十法 ノ第七啄点ゝ紀 四法
ノ第八磔点ゝ紀 八法 磔点又謂掠点
右五紀ゝ点元七十二点也 永字八法ゝ伝 蓋七十二点ゝ変 紀と集法解合注

右ハ連ねのく俗り筆
形を右乃取ハ書とれ
りそくれ

格法七十五字

書 璽玉年 玉案と通

此字乃字清一文字し
初ハ記をとく俗りて
ねりこれをもりて書へ

剛 剛判別
利刀とも

頭ハくとくとまりく
ハ引つめ面ア
ひハ引ちあ
堅乃一文字をとる

永字乃法ハ字点乃大ようとる而畫法乃始祖
筆法乃格意なれハ法要授受乃あひさ可寧綿
密ていれ伝秘史一端ハあ一ずれハ引れと解
せずこれハりこれけハ又れとをるべこと帝ハ法意
ハてハんこ密ハ而ハ解乃せんようて文意ハ法
てれこれと義乃て意味一史乃而とうこハ合せて
字下ハ為ア帝とひらき帝を為乃法ハ法合
せんと欲す秘府抄ハ載る而永字乃平授三史ハ
分朱やりこれを奥抄乃為さらぬへし蔡邕一中
郎羅振ハ授る八法乃史あり或ハまりこ女蔡振
ハ授る八法乃有あり又或ハ衛夫人乃王羲之ハ授
る而乃八法乃伝ありこれとを点を畫乃下
を教しく灵刑と都るに羅振ハ授るに羅振
ラ女蔡振ハ授るとハ女伝ラ郝逵人乃王羲之
ハ授るとハ義伝と称ることれと字下ハ一拳し
て文意乃灵刑ると同着ハ而伝せんようと称ず
為ることあり

右筆法演義張怡和解伝

郭 郭敷郎 邑法とも

利刀ハ同一形ハ
様乃ハ点ハ
乃ハ点ハ
先ハ点して引て

邵 臣怡陪 鉄拓とも

一分兵是し
毛も堅ハ引一文
頭乃ハ
ハ付れ
引へし

合 分食倉 合葉とも

一分兵是し
ハ伝ハ書も
ハ伝ハ書も

義 家文義 落掠とも

ハ伝ハ
ハ伝ハ一矢
ハ頭と先
本も同あし

文 文史是 寛掠とも

ハ伝ハ
乃やハ
ハ伝ハ月紙
ハ伝ハ

阿 院附限 年法とも

右乃邑法と同一形
毛ハ小さ
ハ点乃ハ
ハ点乃ハ

車 軍車 歯針とも

ハ乃ハ
何とも
ハ引
ハ引

来 来朱べ 人折とも

ハ形ハ
ハ伝ハ
ハ伝ハ

愛 底復愛 頭髪とも

和朝も為ハ
ハ伝ハ
ハ伝ハ

乃 乃為 乃為とも

乃為乃字ハ右ひ
ハ伝ハ
ハ伝ハ

雲 レヨ トエロ
雨冠に云 ユロフ
雲は見迄とぬさ
ゆるやくこりこうい
ゆ ゆくこりこうい
ゆ ゆくこりこうい
ゆ ゆ

辶 進道迫 之入とも

竹 箱管箸 笄冠とも

丶 火出す 抱象とも

寸 時尉紂 寸指とも

囗 囗囚 口部とも

彳 仕仲何 人篇とも

亠 冷元 側点とも

犭 狸猿 竹篇

門 閑関 門部とも

鳳 鳳凰 鳳翅

月 用角月 丁字曲尺とも

心 恋心思 真点とも

糸 糸系 糸偏とも

力 方万力 古字とも

氏 氏民氏 苗字とも

木 小木象 那波とも

水 水氷泰 水偏とも

見 先完兜 枝撓

女 安妻泰 女偏とも

田 田 畑とも

可 カ ヘシ
上ニ下ニ反ル
可ヲ蓉丸と云

行ひくわるる事
ふ野ゑ丸ふ有し

他 ヤ ナリ
他地絶
岸流と云

九月離ふ用し
表裏ふく有り
引抜ふるふ

春 シユン ハル
春蓉春
春く翅と云

冬ニ入ハタ スツク
男夫ふ行ふ
へし中ふうとく
ふるふうふへし
仍ふ拾ふ
ふれい云安ふれ

不 フ イナ
大夫具
不極情と云

此ふ字ふ
ふり食てふと
よく行べし

幸 サウ クサリ
不幸
逆桃と云

此むとふ逆猿ふ
用しとくけ
て用えまへし

京 エ コロモ
京
京懸京
ふ逐抱と云

英ふり出しと風
ふて懸ありくお
さへ角

毋 ボ ハハ
毋梅海
金懸と云

此ふひとの用結ふ
とく用て行ふく
やうふとへし

丐 キウ ユミ
丐
勇尼尺
ふ鱸角と云

此行付ふ紙ふ
上ふ角ふうふ
ふべし

必 ゴ イウ
必
必心必
ふ懸家と云

此もさ紀れふ
もと用ふふ肝勇

聲 ヒツ ツテ
聲
逆津律
ふ娶と云

上ふ角ふ点ふ
行ふ有ふ宮筆始
とふく行ともし

卵 上シ イモ
卵
家象豪
ふ暗と云

此字ふ拍合ふ
みくもふる字
ふれふ指合肝勇し

善 セイ アクシ
善
猜情情
ふ絡と云

繰紙ふ白拍用ふ
みふてまやふ
角とふて書つきし

宥 ウ アル
宥
自貝目
ふ蔦と云

此ふ白ふ
筆ふてふきふ
ふきしふく用て
引ふべし

樂 ラク タノシム
樂
燕
戀燕憂
ふ繪と云

此まへふけくふ糸
ふり出とふうふ肉
ふく書つきし

毛 モウ ケ
毛
瓶毬鬼
ふ鈴尾と云

此ふと筆と懸ふ
移ふたまりく
ふべし懸ふく云
角ふくふ

上 ジヤウ カミ
上
四白上
ふ行情と云

ふうふトふふ一ふ
ふ以ふふくつまり
てふの白と用ふと云

つ コウ タクミ
つ
紅紙紅
ふ躍と云

上ふ筆ふ中ふ
押ふふり
下ふ逐抱ふ用

山 サン ヤマ
山
鶴亀
ふ懸と云

次ふふ馬ふへ張出
ふふふり四方ふ
約合ふ白ふふ

言 ゲン コトバ
言
月使言
ふ絡と云

此ふ一懸ふ
ふふうふふり出と
ふふふへし

南 ホ ハエメ
南
用用南
ふ曲と云

上用ふふり出
ふ一ふ移ふと
ふふ行ふ

月

此字月小点仮小書
之時之中を勇と仮中
乃点を以て打込べし

伊

此字ふと川乃てにを
之仮合と肝要と也

中

此字ふと川乃物なあり
仮一切なく書ゆなあり

和

此字ふと川乃物なあり
仮一切なく書ゆなあり

ル　七　抜文字

此字上乃あきまる程
下ともあるべし

東乃変化小部くり仮形一先物んの仮形文字乃筆と云字る
とゆくよりとと上乃色ふと字ふとり三字のんに代ゆく
二十字を仕ってべしの筆乃あれば物なれば仮ふ
仰く成やすく若自在筆乃仕様をもって仮無とも勇しく字なし

筆法傳授

十

此ひとびいまきて
ようゆひびく

十

此頭の筆法
ふとくきまし

十

此頭のぬけく
あしきなり

十

此頭をつきまる
ゆへふりきし

右乃ひとびいろ古にようゆひびく

十

此角にて点を勇べしと名付くよって仮
此形
書ようる仮をもて物んに入ふ仮ぐて書

右乃如くび罰たるべきもの
毛ようしたる　右無びくし罰と一字ふ
くり除切と

戈

一上より見てこれ而ふ添たるもの稜ふ毛さた油
乃如く書付は文字ふ靈あらく原しぬ此
乃如くれふ除切とつまざれい細之書とく紙ふ
書乃者びむる遲しかりそく付りあまりふ
而ふくい筆ふまを也いやうみも結べるみへ
之色仰形神は寸西一と大切ふとかしも遠ふ稜ふかべし
却り得くいのやうふ書てもよし
一字歌ふかまの事を四つ引みあらび筆あらりと見て
毛乃さびれと幸ふ稜ふ除切とべる事　附象形
和漢筆法要道抄巻之三終

永

▲結構七十二例

怪石

永神交飾

▲怪右八法字頭点

上作乃四字毛ふ側長と
用ふて字ふ怪石乃長い
字乃如ふ点ふ点ふれべま
乃如ふ点ふ点ふ
又ハ点ふ怪石無珠乃三
点ふ如く同じかつ怪
石い字畫乃如ふ中如る
点ふ如永字乃長毛ふり
畫殊い字畫乃終ふ折し
治儀ふ乃長ふり

一字八法具備　永の一字ふ
側勒　努趨策　掠啄磔は八
法具ふ備りて佐字の様式必
學者須當玩味
後ふ書学乃くいかゆつず
先は永乃字と見ひそあ
ふひくあらりべきしまく
ふく八方ふふくるまい毛
如れくり
吾道一以貫之

▲側紀十四点之分一

怪石

世界四方

▲此点乃形あやしき点と蓋てる
やう如ふ怪石く名付ふし
永字八法ふくい毛と側点といり
筆法十四点ふ踏襲又ハ踏過と云
七十二点ふい毛と怪石とやうし

怪石

中　永　中　中　中

一一字八一法具備
學者須當玩味
吾一道一一以貫之
升一堂必能入一室

右一点八法乃名原乃口義

二 三 四 五

起　老　伎　巻

落　旁　回　磔

右起ふ毛と打点ふ
とい字と起一あ
とい字と老ふ
とい字と伎ふ
とい字と巻ふ
とい字と落ふ
とい字と旁ふ
とい字と回ふ
とい字と磔ふ
とい字と
引いを怪毛ふ
らすし八

▲杏仁点ハ、これも式法よろ
尖雫直撥の式し右点
用よい杏仁の点い右方より
左方へ点し用うるもし

以白爲主左右蟠龍

樂乃字い中乃白乃字式
を主として左右ハ幡龍乃
点をうつるもし
下ハ一と句ともらく
撥乃ごとくたまりくるもし
式杏仁点い側化分三乃もし

杏仁

樂

平 齊 平

平平 左右蟠龍点乃ごら
と同じ式法ハ左へ点し
齊齊 左杏仁右梅核乃ごと
ハ撥ひとくくもべさし

以白爲主 左右蟠龍
正白一句 輔弼二点

正白一句 輔弼二点

白ハ主位あれば座を正しくして席を
居一句乃左ハ杏仁乃点ハ右右ハ梅核乃点ハ中乃
るし法式撥間架乃点再よくひまりなるもの分て可也

▲此四字梅核点ヲ用ル字

梅核

▲梅核五訣左点爲

梅核

鯨舩弁

と付乃四字乃梅核ハ
点式如くなるもし梅核式法
い右杏仁点ハ行く後ス
杏仁い左方し梅核い右方
ハ杏仁乃式法と右方
ハ点ハ行く梅核い右方
乃方より左へ点し

▲例化十四点之分四

梅核

弯 曲 撥 圓

▲此点乃形い梅乃核ハ仰る左ハ
梅核と名くし式法い杏仁点ハ
左へ点し杏仁梅核式ハ
式法乃形 尖 尖ハ左へ点し
ごとくるなハ尖ハ行くもし
尖ハ撥と点ハ行く撥を 圓 形
て座化し 撥 形裏のあらハ撥を
核乃ハ右へハ点ハ撥乃 弯 点乃肚い形裏の

ひらきあく角ハ弯し形ハ撥あり

一字三停格度分明

下筆斟酌須要認眞

此註有上

一字三停 格度分明

下筆斟酌須要認眞

玉案 今ハ玉くい玉篇解
案乃三法を用ル
曲尺 曲尺乃中の撥三点い玉案乃点し
曲尺 尺目乃中の撥三点い玉案乃点し
曲尺 尺曲尺乃中法を用ル
曲尺 尺曲尺乃中の撥三点い玉案乃点し
曲尺 尺曲尺乃中の撥三点い玉案乃点し
曲尺 尺曲尺乃中の撥三点い玉案乃点し

左旬右傍大　底下安四点

左旬右傍大の字の底下安四点の字の点も点畫と分る時ハ右の傍の点と一つ繋ぎ口の点ハ右ハ犬と接と一つ正楷の点ハ右より左へ一つ懸珠の点ハ右より左へ一つ懸珠の点も底下安四点の字の点も点畫と分る

若則不可

常線法大切なれば常と法と共に不可し。たとへ初点 ||| 独立して細線と常ざる正点あるなれば点畫と繋ぎ常線ハ点畫と繋ぎ常線ハ点畫と繋ぎ常線ハ

撰いあのむりとくあわしかりてめふ清く書ゞ記字あくし空眼いま中乃白紙乃愛一般ふむ引く書つさし
みゆるやうふしくとりろ約合程御ふよくんとめろ〜付く書つさし

筆法各清清 空眼一般般 畫点筆法あざやかにタ

鐵鈴

▲此四字鉄鈴点ニ用ル字

率犀斉扇

▲鉄鈴重梁無砦

ゞ点乃鉄乃鈴ふ似ろ乃重梁いきいおろ梁い法梁
あれいきつゝれとゝ乃鈴の
まゆく法梁乃つゝれると
ゞ点し無きとい鉄鈴の点
ろくゝれるもろ句ゝ

金匂二字併必須要躰閑
て字斉乃くあれさるやうふ書と使しす
約乃ま乃書と分る時い乃金乃字乃ノ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

上下一般齊 不許有長短

ゝい今乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゞ右乃匂のノハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
合ふく吉組盈缺ふくふ書へくる
ふゆ乃くらあひ約合ふすくゞ自ら出
くへし一禁ふあるへろす

約乃ま乃色い参乃字右偏い匂乃色と要くたふ引き色
疑乃字の組ふ乃と為と引き乃ゝ
乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
二ハ乃出来し ハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
とハ乃乃鉄組し 組ふ字乃上下一般ふ約
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

鐵鈴

鈎

三十斤也

▲側点十四法之第八

ゞ点し鉄鈴乃組ふ似ろ乃鉄
鈴く名付ろく

金匂二字併
必須要躰閑
上下一般齊
不許有長短

亀頭

府宸高疌

亀頭一画内三法

上件乃字皆急以点ヒ用
ゞ三法い上組下去中勢
斜勢乃法といつろ

左邊六事匂右邊七事備

龍乃字金字乃ふふさ
逗とどくたろ色六以乃
ろろもろろ杨ふ勢同平均
ふ書洞一右色乃七ふ
もゝろり六事七事しくくあきやに法
筆法よくゝ点く畫くゝ乃名筆とろくゝ
自然天然し書ありむいたすり他一拙
古本熟知ふ乃組い点一畫之ゞ猪を

亀頭

龍

七事

六事

▲側点十四法之第九

ゞ点乃法乃亀乃以ふ似ろ乃組名之
上組下長中勢 斜勢 筆斉
立乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ふゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
方へ色色を引き長ろん色ハ自斜勢

▲左邊六事匂 右邊七事備

筆法照名精 不慧自然會
ゞ組上ニ俗解ス

羊角

弊粲厥善

羊角二画上両張

ゞ点乃左右へ乃ろ乃ゝ
上件の四字ハ羊角点と
用ル字なり

羊角

▲例点十四法之第十

ゞ点乃形羊の解似ろ
故名ク

絲細

ハノ糸組

左邊單鹿 右邊米舛

羊角

麟

▲左邊單鹿 右邊米舛

筆法照名精 不慧自然會
ゞ組上ニ俗解ス

麟の字の右の点は鹿の字の一の点の如く鹿の字の右の点は米の字の点の如くなれども右の点は米の字の点の如くなれども右の点は米の字の点の如くなれども右の点は麟の字の点の如くなれども右の点は麟の字の点の如くなれども右の点は麟

▲垂珠俯仰合和

垂珠●此点乃形ノ俯仰ノ如ク作テ俯仰ノ如ク
やうなそ珠をさはる
ことくあくるとし

横四竪止二 空眼般般備
封乃字左色横一点左右ハ狩ノ屋眼般般備
二点 右色横一点左右ハ狩ノ屋眼般般備
点在二竪中 寸横圭二対
点ノ中ノ中ノ中

を所要の筆法なり
横畫はまつ先に紙の
玉案の点より横となつ
さるべし

横六連口穿　都要一般寛
壽の字横の六所竪の
点筆連て引穿ち点く
ものにて一般ひろさやうに
なるの所要なり
下面寸和口　分中不詩偏
下の面右名れすの字の
口のわきのなかのやう
すの字のにのなかのやう
ぎもぎのるし口とすれば
右竪の点の中を分て
かさなるものとゆるべきなり
武壽の字勒点一寸法の
そばめん玉案の点即ち
勒点なり紙物のかけるの
なり武点永字の第二毫
のみて横畫の紙なり

斜案の点し為まい筆先を紙のうへと打付て
垂掛筆紙をへまま色彩し極彩のかろく彩し
打止とそばめんとなる所をくあるの物のるく波の形
のみて斜の物一紙のし濃い大あるの物のるく点し
案いてみくらおきし玉案点をくいれ案のく
物すぐきしをすこと云いはさし物一まづさと云い紙
筆し筆の極物のくあるの物のるく形をめくく紙
書云のみのて可筆也武細紀あるこれ形案のうち
字ちのうしの物のるく自得をべしう物口偏ありとそく

玉案

横六連口穿
都要一般寛
下面寸和口
分中不詩偏
此註上解

横畫色崔嵬掩永字八法と和解二曰一者横畫の紙
のみて永字の第二筆も武点名勒と云筆紙横て
右より彩く遅濃をあり筆紙回したより勒当
の毫波疾ありとそく 往古勒いる癖なり今これを勒

云勒渡ものの字紙用ひるとそ
強れい勒点い永字の二筆のみ
あり筆をめぐりくたるの物
とそく勒渡とそり判とそく
毫勒と云いを筆紙付をるの
のみ筆とく癖く永のひきの中
勒とく云い毫擬筆のみとく彩てを
と彼の彩の自とく切成るの
の法勒いれ紙紙のみて横
たりの物くを可去とも
らの点の平なるものを点
とく毫の紙の物の云がごとく

○永字の物のを

○崔嵬掩縣の物の永字
の物の筆の物の物の
の物の物の物の物の
の物の物の物の物の
の物の物

頭上二横山 車肩一担擔
軍の字らと書の所あり
山の字と横山とあるべしなり故に横山と云り車の字の肩に一ひとへ荷
ふる絵し

連山帯車数九禹一般寛
連山とは羽の字山を横に二川あるべしなり故に連山と云
合て軍の字となり 九禹一般ひろくゆるやかにかるやうにふるくもれ

石擔

軍

音灰 疾也

キシトヒアガル

▲勒点十法之分三
山横鉄の掾と乃るにさしより
出筆接勢
出筆毛先を形
出筆特用
中弯細些
内弯
内直
外弯
玉案寫
圓
特角小勾

▲此四字鉄城点ヲ加ル
鐵城

圓圓固圈

▲鉄城四方倶善
鉄城□点形四角に
鉄城と尺ぐらく
別法にくまきこそ古

鉄城四角全或字在中間
鉄城の角へ四点の角と
まて四固のくまつ
ふ二なり或の字い横の
中間に点城中と則ち

鐵城

頭上二横山 車肩一担擔
連山帯車数九禹一般寛

上弋下撇中玲瓏不許粘
上八弋なり下ハノなり
ハ撇なり弋乃首く
撇乃尾と中小脇と付
て書るに必ずく点
く発乃ぞう小点書と
可はこ指り付ら指ふ
ヤも書ゆなれそれと不許粘と云り指乃中とあるやに落く書の所要く

▲此四字 折釘点ヲ用ル字

折釘

朝盡船翰

▲折釘角轉一雪
折打い打と打ちるにか
ちとり業先を出
角とまるめ打てひと
点にかゝひちなり

犬呂一巾擯獅 無入得知六竪
獅乃字犬呂一巾と云り
ありやく獅と書ること
只人六乃竪乃ちに獅ふるかりる
点撿空眼分明 今朝説破這趣
今朝説破這趣 此註上解

折釘

獅

特用 角 玉案 竪 六

▲犬呂一巾擯獅
無人得知六竪
点撿空眼分明
今朝説破這趣 此註上解

▲勒点十法之分四
山点打と打ちるに似ちる故に
出筆特用 角 玉案 竪乃右

上弋下撇中玲瓏不許粘

○筆道周法 中

くくと云ふ式に成ハ此故帝故あるど乃破乃字ふ因ふくと遠ハこのこ候又ハ迦ゆり

吟蛩

節卿鄉澈

▲此四字吟蛩点ヲ用ル字

節字音節字

節ハ音節ハ

上頭頂是竹兩邊節の字節の節也

節の字の節の節也

節の字の節の節也

節の字の

此字畫数十二畫あり又竪又横乃点ハ属多し乃点ハ属もべし

▲此四字邑下点属ル字也

邑下

都邦鄭郾

▲邑字為下字
邑乃字と省除く下
かし今字小書ふべし
ハ邑乃字ハ

者字五横均
右下邑字音
者字ハ横乃右の点ハ
ハ大小相違ふひらく
可書也又右乃下ハ邑の
あれいろ乃音

二空一般大　者下一般伸
二空ハ二所ハ大小ハ二空ハ
ふとるる法なり又右者右下
ひくひくしのべて可書なり

▲勒点十法之八

邑　邑下也　都邦字と
ひく可見也

玉案　出筆

曲法乃下

出筆　三竪　三横

鉄杠　角

鉄拒

鴉角　角

毛多右位ス可準和

曲法乃下

者字五横均
右下邑字音
二空一般大
者下一般伸

陵蛮四法

邑下

都

般大

駝頭

寫鷹鴈

▲此四字駝頭点ヲ用ル字

駝頭

▲駝頭尖包二点

冏

尖包二点
九細絲帯

▲勒点十法之九

駝ハ馬なり冏ハ形馬乃頭ふわ
ひくる故ふ為ル

角法

弯

轉角

九細絲帯

右位ス

此下ふりがく法と

一点一帯　犀角連点数為横五
為乃字犀角乃点ハ一点
と落る故ハ一点一帯ス
云し又横ハ又ツ乃点あり
上下結構玲瓏絶世通今徹古
上下乃点由乃文むしとひ
むとひくしくちやうふ書かし字形多端ふ字ハ
絶世ニ世にたぐひなし
名多と云ふ通徹ふるる奇妙なり

尖包二点　駝頭冏ハ中乃四点乃月二点と冏ハ鴉
角乃ふるふ上とふるるに点ふく肉ハ包なり初乃二点ハ
ふるふ上乃外ふる毛と尖ハ二点と包むふるなり

横

為

五

一点一帯犀角
連点数為横五
上下結構玲瓏
絶世通今徹古

此註上解

舞鶴

祿裝禎禮

▲此四字舞鶴点ヲ用ル字

▲舞鶴ハ禾ハ礼ハ衣ハ禁
裏ハ云ハ丁搏ハ搏ハ音
蹟者方圓之法也揖欲
妙駐駐則有力と云ハ
点と云ハ禾ハ礼ハ
ふハ法式ハ云ハ
ふなり

舞鶴

禎

回法　梅核　竪重錯点
玉案　角

舞鶴

禄

錯

▲勒点十法之十

此点形象鶴ハ似ふる故名
玉案　回法　梅核　角
も右ハ位ふり可準和
竪重錯点　毛竪と横乃点の
中へ打とも筒へ引し

▲夜章量長短
夜章要躲閃
夜竪錯上
章竪穿五
服

此註上解

衣章量長短衣章要躰閃

衣章竪錯上点　章竪穿五眼

衣と章とを長短とたくべくして左衣右章夫方に躰閃乃法所要躰閃乃二字ハ衣乃字ハ強り

衣竪之錯上点　章竪穿五眼　此点乃ゆゑ猶上点と右ハ之竪重猶点

ゆゑ竪乃字ハ竪乃字ハ竪乃字ハ

○永字後繇借云　勢ハ弩

○永字工義之借云　勢ハ弩張

▲此四字鳥雛点ヲ用ル字

鳥雛

駝蛇虎怨

▲鳥雛雛鳥無毛

鳥雛

鳥雛

馬字連点横五

馬它竪五亦然

駝乃字ハ左ノ横ハ

点ハ横ノ方ヲ

又右ノ点乃它竪ハ点ハ

横竪空眼一般

点画各按法度

横竪空眼一般

▲勢紀六法之第二

此点形ハ名ハ鉤ハ形ハ

上縮下長

形ハ

直

遠

弩

弩回乃内ハ

角平

▲勢紀六法之第三

此点形ハ名ハ点ハ形ハ

上縮下長

中勢

横竪空眼一般

▲此四字乖針ニ属ル字

乖針

壁牢羊串

▲乖針針乖有象

毒汁一ハ点形汁ノ象

ちハ形ハ象ノ象

ちハ形ハ象ノ象

北字挿上千　空眼一般寛

乖乃字ハ上ノ横ハ千乃字ハ

横四

竪三

横数眞顕四　竪数只見三

▲勢紀六法之第四

此点形ハ中勢直

上縮下長

中勢

▲此四字曲尺ニ属ル字

曲尺

鷺懼鼎見

▲曲尺如尺角曲

出峯勢

中勢直

玉案

拐角

▲勢紀六法之第四

此点形ハ中勢拐角

玉案　出峯勢

右ハ法何モ左ノ如ク

曲尺いつ〻れ大之乃曲
ものふ仮ら又已法之
下小弦ちゝ〻

上段與下段共作一字着
上乃繻と鳥と紙金て
繻と上仮ら〻ゑ式下
仮ゝゑ上繻下鳥一字
ふつゆく尺ゝゝ看と後り
白多〻一つも書法ふゝ法やうにう
あゝやゝ仮書い筆法自〻天然と尺れたり

曲尺

繻鳥

上段與下段共作一字着空眼甚分明筆法自然見

此註上解

空眼甚分明 筆法自然見 此字空眼是

▲此四字共ニ馬椿用ヒなり

馬椿

慷慨惟慢

▲馬椿似椿馬
馬椿ハ十馬と法ゝ
なりけ法十ニ
馬椿挿袁脇馬椿上下短
馬椿右ふ法と懷ハ懷乃脇
ふなり十と袁乃脇
ふゝとさひし又馬椿ハ
上も十もうゝきし
右邊十四衣 左邊竪二点
右邊十四衣ゆく左乃

馬椿

懷

小 杏仁 鉄柱法 楊

う友ふ名クルゝ

上段十長 杏仁 鉄柱 角楊

▲勢紀六法之弟五
椿と代ゝ代い馬と法ゝ
代なり仏点飛ゝ仏
馬椿挿袁脇
馬椿上下短
右邊十四衣
左邊竪二点

此註上解

▲此四字象筋ヲ用ヒなり

象筋

拜爾軍早

▲象筋三法各備
象筋一 已なり三法
一ハ無法 二ハ中筋 三ハ露
法 右乃ゝ〻ゝ仏と法三
法そなりてゝ乃ゝ仮
筋あれ界ゝ

象頭兩象筋 照應勿糊模
齋乃字上乃ハ仏ハ龜乃ゝ
次乃中ハ象筋乃有明ヒ
るなり下乃周乃字も象
筋なり下も中ゝ象筋
乃れ象筋ゝ象筋ゝ
上竪三空清下竪五空疎
く書ゝ〻又下乃竪

象筋

無法

露

軍早筋乃ハ仏ハ
仮小法と法ゝ
仮小法と法ゝ

▲勢紀六法之弟六
仏点飛ハ筋ハ仏ハ仮名ク編ハ
已法ゝ法ハ仏点拜

象筋

上 三 五 下

齋

龜頭兩象筋
照應勿糊模
上竪三空清
下竪五空疎

此註上有

○右永字八法勢紀六法ゝ畢

永字弟巳 鶴紀十三法ゝ弟一

ハ也紀なり又右点ハ竪三点乎ゝ後〻左右乃五合結様ふゝく
哪と付点〻已又馬椿ハ筋点乃象紀乃弟六なり

▲此四字線勾点ヲ用ル

線勾

手拿手撃

▲線勾上平下斜

線勾ハ丨月ノ字 線ハ下ノ方ヘ斜ニ引クヤウニ上ノ方ヘ斜ニ引クヤウニ

宝蓋心四丁　采畳四方匾

寧乃字上ハ宝蓋乃点次心乃字を次ハ四乃字を次ハ下乃字を次ハ四乃字を合して寧乃字となる此四字を采畳と云ハ木乃上ノ方ヲ枝と采と云ハ木乃枝ノ方ヲ畳と云ハ木乃枝ノ方ヲ畳と云ハ木乃枝ノ方ヲ畳

緊勾

察景榮輸

▲此四字緊勾点用ユ

緊勾ハ丨上下太斜

【上縮下長將折】

大左斜

大ふたゝびくくの斜ふうあるゝ

兩火盖蟠龍小字共攢縈

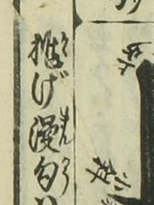
兩火とハ炊これ〻盖ハ
一もし蟠龍ハハ乙也
なり炊ハ乙小ハ也字
とあり〻くくの榮乃字となすし
緊勾ハ上ふ中ハ上乃皆火ふ翻
又ハ小ハ上乃皆火ふ翻
叢ハ勾ハ上乃皆火乃中ふ月とけて
叢ハ横火二ハ
叢ハ勾ハ点中ニ小應兩火叢

緊勾

榮

▲此四字緊勾点用ユ

緊勾ハ丨上下太斜



【上縮下長將折】

大左斜

大ふたゝびくくの斜ふうあるゝ

兩火盖蟠龍
小字共攢縈
勾務勾点中
小應兩火叢ニ

此註在上

漫勾

蘇劉泉諫

▲漫勾上下少斜

漫勾丨ハ直下

▲此四字漫勾点ニ屬ス

▲雖紀十三法ニ第三

漫ハ水平也乃ハ也ハ線勾
いゆくあげ緊勾いゆくあ
推げ漫勾ハ線勾ハ緊勾ハ中位ハ海水
流乃而たりくくとくくあるやうに書故名ハ
承乃字中ハ了乃字ハ
ふくとくふ書乃肝要
ふくくくふ乃横ハ
しくく齊しく書て徹
なり

了字身要直四横短短齊

左右皆有名撥捺要君知

たい撥乃字右ハ捺なり
左撥ノ右捺ハ也皆各
名なりハ撥捺と紙
紙乃かゝめ〻くなり
なり也漫勾ハ類点乃
愛紀第三なり

上乃下大將折 大斜 小斜

上乃下大ハ右上短下長とゝゞ〻

名例上所準知

漫勾

承

了字身要直
四横短短齊
左右皆在名
撥捺要君知

此註在上

鳳翅

鳳氣鼠

▲鳳翅ハ雪々如鳳翅

鳳翅て也乃ハ紙ハ
小ふゞ〻

鳥風竪五横排五
上下周圍法度中

風乃まゝ〻ふ丨ふハ竪

▲此四字鳳翅ニ屬ス

▲雖紀十三法ニ第四

鳥風竪五横排五
上下周圍法度中

鳥風ハ鳥ハ風乃翅ふ似ル
ハ右付ル

鳳翅

風

鳳翅

▲此四字竹籜ニ属ス

竹籜

狻猊猿扞

▲竹籜撥撥相竹籜

竹籜ハ才毛ニ撥ニ成ハ才撥ハ三カツ乃撥点乃くらい竹乃籜ハ細ク成ハ

猿字音爲絹犬字来相伴

毛猿乃字毛爲絹犬字来相伴ハ

ハ毛ハ才乃字ハ

ハ才乃字ハ

ハ毛大ツリ

玉案斜出筆下撥弯

小弯

各上ニ可準知

拖筆行折

毛筆と

拖筆

筆と撥とあごとし

再將筆鋒明剣利

些兒鷲鈍不成風

此註上ニ有

撥曲竪曲筆鋒と申ハ

ハ毛ハ才毛ニ撥ニ成ハ才撥ハ三カツ乃撥点乃くらい竹乃籜ハ細ク成ハ

▲趯点十三法之分六

ハ点形ハ竹籜ハ細ク成ハ

尖弯直弯指折角挑亜形

竹籜

猿

ハ点各お可準知

ハ毛ハ才毛ニ撥ニ成ハ才撥ハ三カツ乃撥点乃くらい竹乃籜ハ細ク成ハ

猿字音爲絹

犬字来相伴

休論犬與猿

空眼一猿辨

此註上ニ解

竹籜

猿

ハ点各お可準知

ハ毛ハ才毛ニ撥ニ成ハ才撥ハ三カツ乃撥点乃くらい竹乃籜ハ細ク成ハ

猿字音爲絹

犬字来相伴

休論犬與猿

空眼一猿辨

此註上ニ解

什論大與猿　空眼一猿辨

ハ点右空眼一般ト

ハ点ハ前後高下ハ

ハ点ハ前後高下ハ

▲此四字鸞翅ニ属ス

鸞翅

飛飜飜飛

▲鸞翅両点象鸞翅

鸞翅ハ点毛象鸞乃翅

ハ点ハ毛象鸞乃翅

鸞翅一撥又鸞鉄

内有二一鸞喚鉄柱

飛乃字乃字点とハ鸞翅毛象一撥ハ

又鸞翅毛象一撥ハ

左右空眼盡分眼

共間正看大三竪

鸞翅

飛

▲鸞翅一撥又鸞翅

内有二一鸞喚鉄柱

左右空眼盡分明

共間正看大三竪

此註上解

鸞翅

飛

斜

玉案斜出筆下撥弯

小弯

各上ニ可準知

二点止客内

二点止客内

二点ハ心乃心ハ

ハ点ハ心乃心ハ

▲趯点十三法之分六

ハ点形ハ竹籜ハ細ク成ハ

玉案斜各上ニ可準知

ハ後前ニ可準知

ハ点ハ心乃心ハ

ハ点ハ心乃心ハ

ハ点ハ心乃心ハ

ハ点ハ心乃心ハ

ハ点ハ心乃心ハ

ハ点ハ心乃心ハ

▲此四字飛雁点ニ属ス

飛雁

幾載戦

▲飛雁し勢飛雁

飛雁し点雲形ニ似タル点ニ似タル点ニ似タル点

胸肚弯應中不許過不及

胸肚弯應中不許過不及

此註上解

項弯陶弯

方ハ弯ハ平ニ

肚要平弯可

肉ノ方ハ平ニ

接角一抵

前可準知

▲此四字龍尾点ヲ用ル字

龍尾

龍尾龜毬亂

▲龍尾曲似尾

龍尾し点まがりて

鱗乃尾ハ似る故し

龜頭龜尾共十画

龜乃字ハ卵ノ尾ハ多

まして字乃くくり十画

空白空眼眞鱗甲

右甲乃空白空眼まして

龜乃甲文と乃ごとくに

書ス一説甲ハ龜乃甲文

なり此龜乃字ハ画多き字なれ

乃同案法指と云く然ル乃重多ると可知

▲超点十三法ニ分十

点形ハ龍乃尾ハ似る故龍乃

直直弯平平圓上一抵可

勾直正

何も前可準知

龍尾

龜

▲龜頭龜尾共十画

空白空眼眞鱗甲

此註上解

斜ハ弯ハ下リ手法点

接下ニシテ斜ハ下ニシ

項弯陶弯

龍尾

龜

共十一画

勾直正

直直

▲超点十三法ニ分十一

玉勾

遂糙象揉

▲玉勾弯相勾

玉勾ハ丨点ヲ下ニ

下ニもげて弯ス

弯乃後下ハ弯ス

横空斜空空一般

横空上ハ口ハ空白ニ接ス

斜角ハ象ハ空白ニ接ス

斜角ハ斜角ハ空白の

所一般ハ可書ス

上頭竹頭頭總觀

上乃竹頭ハ竹ハ付ク

て下ハ和毬ハ

玉勾

蒙

横空斜空空一般

上頭竹頭頭總觀

此註上解

玉勾

尖弯

行点尖少て弯ス

直小弯斜接一抵勾

横弯

横ハ玉ハ

皆前後

▲此四字玉勾ヲ用ル字

▲超点十三法ニ分十二

獅口

初習虜劒

▲獅口ニ

獅口ニ毛ヲ

ハ点ヲ

獅ハ乃ハ

獅口

玉案弯

玉案

接角出

接角

▲此四字獅口ヲ用ル字

上乃竹頭ハ竹ハ付ク

て下ハ和毬ハ

玉勾の超点乃如ク

獅口

玉案弯

玉案

接角出

接角

▲超点十三法ニ分十二

点形獅子乃口ハ似る故

出業接角出

これ筆と

ヒ一角と接ス

何も何も可準知

劒字下脚齊 僉点要救快

毛劒乃字乃左僉右又乃下人乃脚ハ[illegible]

下脚ハ[illegible]又僉乃懸珠乃点乃絵乃点ト收快

[illegible]

刃字一撥來不許点犯碍

刃乃字の撥点ハ毛懸珠乃絵ノ点ト

▲此四字宝蓋点ノ用ル字

寶蓋 寰宇寵宦

▲宝蓋下盂諸字上承

宝蓋ハ[illegible]

宝蓋共又六数 一一歩置相停

宴乃字宝蓋乃点ト[illegible]

六数撥点ハ[illegible]

獅口

劒

劒字下脚齊僉点要救快刃字一撥來不許点犯碍

此点註上解

寶蓋

宴

寶蓋共又六数一一歩置相停

日字女字正正宝蓋的分明

此註上解

勢式圖

到頭折回便好

到頭折回便好

了不好

了不好

▲趯点十三法ハ[illegible]十三

▲毛上凡字乃ハ[illegible]

▲毛頭ハ[illegible]

▲毛ハ[illegible]

▲毛ハ[illegible]

▲此四字聚水ノ用ル字

聚水

鴻灑灝澹

▲聚水別在首点下

聚水ハ[illegible]

聚水

是永字第九

策点 是也

策点変化聚水点也

直細帯

斜ニ按細帯

出筆按

何赤須可準知

策点七法ハ第一聚水

毛聚水ハ[illegible]

▲右永字八法第五策化七法ハ才一

是ヨリ永字八法第四趯点十三法ハ畢

▲右永字八法第四趯点十三法ハ畢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

聚水八數是磨横

磨乃手左色ハ聚水ヲ磨撥ハ右方乃撥ノ点と云り撥点木ハのごとくなるように磨られたる色ハ磨られて居るも又磨と横ふれば九ハ数乃点重き一く重ハ小可考見

亀頭九應口 犯碍不為清

亀頭ハ下の言ハ亀頭の色上ニ近上乃口ハ応口の点又下乃口ハ犯碍ハ一体重ハ小可書しり体重へ犯しこられば字勢清らくさるし筆ハ重ハ分ち清く書と可云又聚水ハ筆九七法の法く

色ハ始ハ又今色と重と重ハ小行く運筆ハ一筆紙回ハ筆紙回ハ作て筆と捨く上

又蔡邕 女蔡の法 拔乃永字ハ法乃和解云

筆ハ表頭乃中筆心と有くれと筆同云筆一ハ折と為 重と

聚水

磨

蔡邕 崔瑗小拔乃永字八法乃和解云

九云筆点一ハ横重乃祖永字乃弁又筆重と為ぶく筆と云ハ弾と撥上小曲く運筆乃一筆紙回て筆と作ぐい色後疾乃

任云 筆ハ筆勇乃又筆ハ筆力り小点のくらい筆小例る拔小而名作るし又一ハ折と名づく筆と云ハ勇く筆乃弾と捨く上

又蔡邕 女蔡の法 拔乃永字八法乃和解云

筆ハ表頭乃中筆心と有くれと筆同云筆一ハ折と為 重と

聚水

磨

應口

聚水 筆磨撥 八數 是磨横 亀頭九應口 犯碍不為清

註上解

在前点之下

肩乃点乃下へ付ぬ有ぬ

色ハ始ハ又今色と重と重ハ小行く運筆ハ一筆紙回ハ作て筆と捨く上

又蔡邕 女蔡の法 拔乃永字八法乃和解云

筆ハ表頭乃中筆心と有くれと筆同云筆一ハ折と為 重と

筆ハ作て筆と云ハ何ぞや撥と云筆と重と撥小云筆ハ表なり筆紙作て撥と云ハ撥と云筆と重と撥小筆と云 撥と云

撥く花乃ぐ新筆と花ともむ小勢帰ぐ

永字法云 筆ハ一点やう小ぬく可書くく

○山崔瑗小拔乃永字八法乃和解云

○衛夫人王羲之ニ拔乃永字八法傳云

筆ハ作て筆と云ハ何ぞや撥と云筆と重と撥小筆と云 撥と云

花ともむ小勢帰ぐ

筆ハ一点やう小ぬく可書くく

筆ハ小二点乃分別を得せしんが為へ

右ハ永字筆点四法の事ぬ

筆点七法之第二

▲此四字散水ノ用ルまし

散水

潛江灩范

▲散水ハ挑在首点傍

散水ハ挑ハ首点傍ハ

散水挑ハ

▲散水ハ点ハ

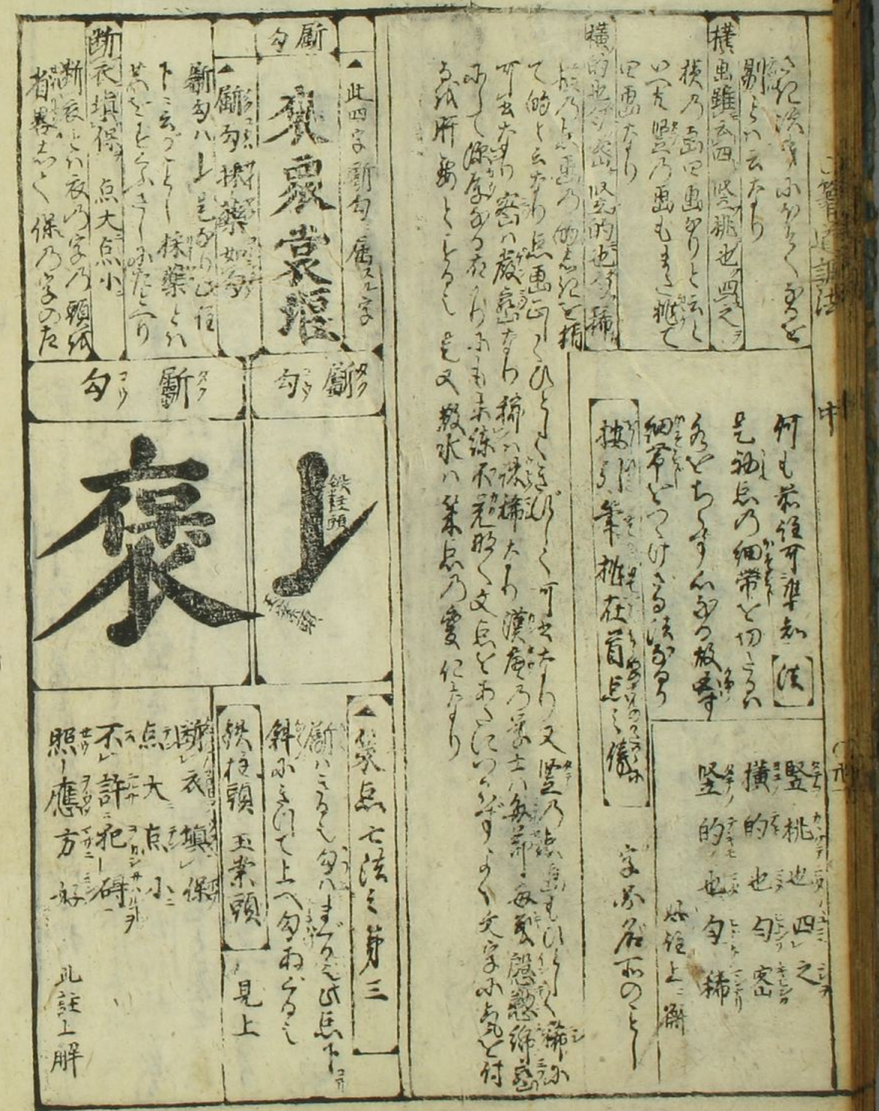
散水ハ点ハ

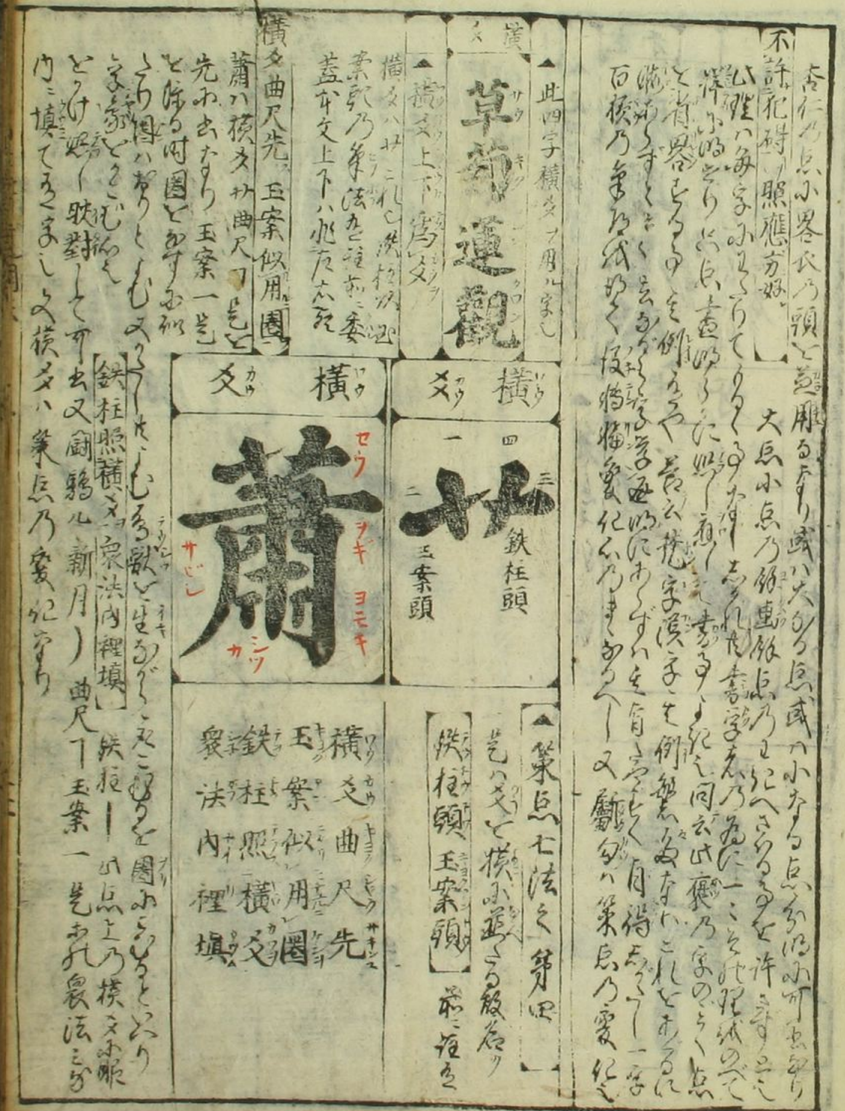
散水

洗

▲散水挑 填空 浮鵜 平剔 犢鼻 雖云四

斜拔 直画 帯出筆拔


▲此四字新句
厲
勹
▲厲勹掃藥如勹
新勹ハ上ヘ勹ヲ付
ト云ヒ
ト云ヒ
抹藥ト云ヒ
斷衣填保
点大点小
斷衣ト云ヒ衣ノ字ノ頭ニ
省略ヲ
ト云ヒ保ノ字ノ
厲
勹
新
勹
鉄柱頭
玉案頭
▲袋点七法之第三
鉄柱頭
玉案頭
見上
斷衣填保
点大点小
不許犯時照應方好
見上
何も茶筅可準知
法
竪桃也四之
横的也勹密
竪的也勹
柿
桃在肩点ノ儀
字形名所のごとし
横也ハ点ハ横ノ点ハ
竪桃也四之
横的也勹密
竪的也勹柿
横也ハ点ハ横ノ点ハ
竪桃也四之
横的也勹密
竪的也勹柿


▲此四字横多ノ用ハ
横
草勹遠觀
▲横文上下
横
文
鉄柱頭
玉案頭
横
文
蕭
扇
▲袋点七法之第四
横文ト横小点ト
鉄柱頭
玉案頭
横文曲尺先
玉案似用圈
鉄柱照横文
衆法内裡填
不許犯時照應方好
大点小点ノ
横多曲尺先
玉案似用圈
鉄柱照横文
衆法内裡填

金錐

民擇特換

▲此四字金錐ヲ用ル字

▲金錐尖且直
金錐ハ一これ切りにぐ
ふ多とかしあるし狂
ト小ふ後ちゝ

一刀分二段　筆勢自然見
一刀ハ一ハ金錐乃点を指
てなり分二段とハ一
ハ乃上下乃突白ハ点を
先郷口と云金錐点を郷
口乃右傍乃角小那紙
付くかゝれハ自然と二段とうち天

金錐

一刀分二段
筆勢自然見
此註上解

▲巢点七法ハ一番六
点形金乃錐ふ郷さる石へ
按筆一鰥按一挑
是巢点ハ一ひとへ手ヲと

虎牙

職縣聲駭

▲此四字虎牙ヲ用ル字

▲虎牙ハ一虎口牙
虎の牙小似乃故乃名

虎牙

▲巢点七法ハ一番六
点形虎牙ハ郷さる石へ

虎牙

▲此四字梨梁ヲ用ル字

池施迤詑

梨梁

▲梨梁ハ一見ル注ハ下ル

梨梁ハ一見清

四竪空一般　筆法各自安
竪空乃突白一法ハ一ハ
法をのく一と所小意
てすまなり

地字長舒脚平圓勻三天

梨梁

▲巢点七法ハ一番七
点ハ郷さる石へ
按下筆把筆使下終
一按挑

梨梁

四竪空一般
筆法各自安

耳爲中照上
二撇須要停
筆法切勻
勿使他人詳
此註有上

是也乃字のし これと共
く書ちがい人乃腰紙部
ちゝくゆくえゝ子の
小系子て勿ハくゝ
くゝ わけいろ行もそゝ
わゝ ゆゝ ふゝ 勇ゆゝ ふ
書ゆゝ さなり 是と 以と
是ちすくゝ し 又 梨 樂
紫紀 第七乃終りし

七十二例 惑紀曰法乃日 巢乃字 以 威 様点又 鶴乃字 丨 以 木人点 以 犯て
是と七十二点 年 ち乃 学 小 紫紀 七法乃中へ加へり 又 繞 様 字
字点多丨是 紫 啄と 椋椋と 小 法 乃中へ加へり 又 繞 様 字
法入丨まゝ乃 所 以 ありて 清 様 小 学 すゝくかて こ 小 に ゆゝ
色丨とゝ多丨ゝ乃と 秘府乃 解 小 ゆゝ り ゝ れ れ ゝ れ ゝ ゝ ゝ れ ゝ ゝ れ ゝ ゝ れ

多毛疾疾なりと、撥とは点乃ゑこうりさうりゑ乃ゑ
運筆式なり たゝかくげ筆毛と掃ひるるゑ毛疾ふるし長短
大小延縮たゝ撥点は式んるゑ
掃は撥点乃たゝりたゝふ乃なり掃とは筆勢と搭て象徴つゝし
今撥点乃式るゑひゝ掃とは筆勢と搭て象徴つゝし
やゝも準あり準はすゝゑとまり筆遣縛ふ濃く自らたゝ出ると
ゑり遣のおゝくもむ又やゝ也毛筆縛と点へ自らとりやりて点へ出
掃点乃筆勢なり動険乃筆勢なりて象徴とゑ丸ゑとんハひゝ
毛にとれ運用ふ出く更ふ的不なれなり 故ふ掃乃精自とゝく可也
式信乃筆勢と相ゝむと示ふ見紙つけ先信乃掃ハ掃ゑと通ゑに見と
合毛毛用ゑ物ゑ自ゑりと示ふ見紙つけ先信乃掃ハ掃ゑと通ゑに見と

○永字後録伝文乃法乃ふを

掃点とゝ云ハ啄点も撥なり掃点も撥なり掃点も撥ゑ
掃いまゝく肥て可書なり
たゝ出て澤抵しゝ

○永字王氏ゑ後接ゑ

掃ゑ

▲此四字飛帯ヲ用ル字し

飛帯

殊殞飛猿

飛帯

出筆撥 蔭科 短 出筆科

殊

▲掃紀十法ゑ、角二

式点飛帯と飛ゑゑゑなり
灰飛帯と名付ゑ

○永字後録伝文乃法乃ふを

掃ゑ

▲飛帯一段一翻一正

飛帯ゑ乃ゑ式ゑ式ゑ
下ゑ乃ゑ一ハ翻ハ中半
下と云ハ正ハ中半上
と云一正ゑ乃一翻也

飛帯左甚短 朱字右太長

殊乃字ハ左ゑ飛帯乃
点なり右ハ朱乃字なり
式ゑ右愛ゑとれハ左字
ゑ飛く右と云ゑ式ゑ
上譲下也譲 上下一般量
ゑ太上下譲合わゑゑりて
下ゑ又間字結撥乃彌し

▲此四字鈎鎌ヲ用ル字

鈎鎌

史吏獲便

▲鈎鎌両停一直一弯

鈎鎌ハ
式点飛下ふあり 式信飛下
中ゑり下ふあり自飛と
弯形紙又中ゑり上い
ゑハ上飛下ゑその下ハ

鈎鎌

法直 中折 中抗

▲掃紀十法ゑ、角三

式点飛ハ飛乃まりゑ
ふ作ゑ乃ゑ右ふ右ゑ
上飛下長法直

鈎鎌

匝日匂匂布

史

腿 腿

飛帯

殊

一般 一般

飛帯左甚短
朱字右太長
上譲下也譲
上下一般量
此註上ニ解

出筆撥

各前後ふゑ準ゑとゝ

掃紀十法ゑ、角二

又飛帯ハ掃紀乃角二なり

【頭乃打ゑ飛ゑ書形り】

【掃法斜行】

法亟ゆり毛と一亟（雪）

亟日匂匂布帯使鈎鎌

日乃字乃中ゆ狗須乃点と加へされば全紀日乃点と加へされば全紀日乃点いなる紀紀ゆ亟日と多り匂匂くひとくく接ち匂匂くひとくく

亟ゆくくと接ち匂匂くひとくく

（中折下雪雪）中テ折下ゆ自然く雪形ひるなり

（正中使匂鎌）（鳴鴨最法明）（兩腿一般雪）此註上解

各右ゆ紀ゆ亟（準紀）

▲此四字雙ケ点ヲ用ル字

雙ケ　離簪策範

▲双ケ兩併爲雙ケ

双ケハ竹　とれゆり紀紀イ

竹康走之　共爲蓬字

竹康ハ蓬乃字と毛之ハ竹康ハ蓬乃字と毛之ハ竹康ハ蓬乃字と毛之ハ

画ノ点ノ如クナレバ斜ニ
ホゆめるし 画乃ごとく
陽乃字ニ書ハあやま
るものなり
又柳字ハ掠紀乃筆
ノ点なり

▲此四字犀角ノ用字

犀角

妙者少勸

▲犀角一撇似犀角

犀角ハノノ一撇なり
ノ点ハ一点犀角ニ似る
少字在上 住字在下
隹ハ雀乃字ハ少ハ上ニ
住ハ下ニ為て点合せて
雀乃字と為す

▲掠紀十法ノ筆六

犀角

此点形犀の角ニ似る故
名付るし
落筆禄痕 右ノ如ス
徐徐斜形 徐ハ安

犀角

少ノ字在上
住ノ字在下
横四為架
竪三為間

柳 箕

竪四

横四

竪四無間
横四不錯
柳箕斜勻
陽善無過

此註上解

〇宣一級

此筆画乃四乃鬼形名形くるに
程ホ一級ホ乃名形ノ如くにかくこと可なり

横四為架 竪三為間
横乃四点玉案横梁乃如
ク背架ノ如くもちゐるし又竪乃三
点乃仁点竪柱乃左間ともちゐるし 横四竪三間架乃
点ノ心ニ点ノ心ニ服とつくるし又犀角ハ掠乃変化乃ホ
ノ如くなるし

▲此四字蛇頭点ノ用字

蛇頭

孝采茅荐

▲蛇頭蟠旋似蛇頭

蛇頭ハハ乃点乃形蛇乃乃乃ごとく
なるものなり故名付るし
蟠旋ハ蟠ハ蟠ハ旋ハ
めぐるなり
撰簇謹切 雨而共子

蛇頭

蛇頭

▲掠紀十法ノ筆七

点乃形蛇乃頭ホ似る故
ホ名付るし
尖直拐圓弯 初ニ可準和
出筆按一筆 筆とつく
按出ハ拐ものし

撰簇謹切
雨而共子
筆法精微
須憑轉折

点乃形蛇乃頭ホ似る故
ホ名付るし
尖直拐圓弯
出筆按一筆
按出ハ拐ものし

筆法精微 須憑轉折
筆法とつくるなり
筆法といへ書ごとにあり又蛇頭ハ掠点乃変化なるゆえ
これ一あるし

▲此四字疊烏点ヲ用ル字

徳行微徙

▲疊烏上下如疊烏

疊烏ハ上点ハ烏ノ形ニ点ノ如ク下点ハ烏ノ形ニ点ノ如ク

疊烏竪画往外
右傍心字勿粘
疊烏ノ点ハ烏ノ点ニ竪画ノ如ク粘ル又右ノ傍ハ心ノ字ニ如ク書ク

再要清々筆法
簡教結構安然

▲孫点十法之分八

疊烏

下用法下些

上沈法平些

上点ハ平ニ下点ハ烏ノ形ニ結ク

疊烏竪画往外
右傍心字勿粘
再要清々筆法
簡教結構安然 有上

此点ハ烏ノ点ニ竪画ノ如ク書ス肝要ノ字ニ画ノ如ク書ス

▲此四字鬪鶉点ヲ用ル字

窈窕竊竅

▲鬪鶉相咬之如鶉

鬪鶉ハ上点ハ右ノ如ク鶉ノ形ニ点ノ如ク

音頭穿也 竅垣爲孔

窈ノ字ノ音ハ頭ト呼ブ又穿ル又垣ト孔ト穿ル毛穴ノ如ク

穴字寛短 人字平開
月刀二段 点應中来

穴ノ字横ニ伸ル人ノ字横ニ伸ル月刀二段ハ横ニ伸ル

鬪鶉

平圓要法

科勢法要法

▲孫点十法之分九

鬪鶉

音頭穿也 竅垣爲孔

穴字寛短
人字平開
月刀二段
点應中来

此点ハ鶉ノ鬪ヲ写ル所ノ如ク

平圓要法 毛平ニ円ク

科勢要法 毛斜ニ伸ル

此註有上

▲此四字新月点ヲ用ル字

新月

鳳凰飄颻

▲新月、新上之月

新月ハ丿ヲ主トシテ乃後ホ点ヲくらいたる方ヲ上ヲ月ふかくしてれば彩月の名を没ゝ引出ると上ヲ失ひもとゞめて中程を細ふかく書ヲ

先立大四竪ヲ後豐九連点ヲ鳳乃字ハ先大小竪乃字乃後ヲ横乃ヲ立ツつゝあれら点ヲかさねヲ

雖是安駝頭下邊分七款

駝頭ハ冠られし巳紀乃点ヲ付ケ下乃点ヲ付ケ下ヲ七ツ乃点ヲ付ケ款ハ付ケ

とゝむし鳳乃下ホ七ツ乃点ヲ付ケ下乃点ヲ付ケ下ヲ七ツ乃点ヲ付ケ款ハ付ケ

あらし巳彩月乃点掠紀十法乃作し

掠紀十法之才十

新月

知月掠

上下夫中組

新月

九疊数

四大竪款

鳳

分七

巳点乃形ハ弓強月ゆくる故彩月ゆくる故付ケし

上下夫中組　先上下ハ

ところ〳〵也中ハあくさ拓

ま書し

水月掠　たの

方ハ彩月乃形のくゝく多リ

先立大四竪

後豐九連点

雖是安駝頭

下邊分七款

巳註有上

●右永字八法之才六掠紀十法し畢

自是

●永字八法之才七啄紀四点し合錯

▲巳四字鳥啄点ヲ用ル字也

鳥啄

和穆耕芊

▲啄紀一鳥啄

巳紀ト小ふくらんだ

ノ点ヲ舒啄乃点し大

の口字ニ属ス

士方文共魚　結構一鰲字

士方ハ共ヲ点し方

ハ文ヲ右ホ曲げ敷乃字

ヲ点ヲ魚乃字ヲ点

加れば一乃鰲乃字ヲ成

穿鈒空眼匂筆法尤精致

穿鈒乃白空眼ものゝ

ゝて筆法ヲ尤ゝ

ゆきすくれし巳舒啄乃

点ハ啄紀四点乃形し

▲啄点乃形ハ下ニ可彼し

▲啄ハ彩永字乃啄点

啄紀四点乃形し巳点ハ

ハくれ拓ヲ啄乃点し

鳥啄

鰲

士方文共魚

結構一鰲字

穿鈒空眼匂

筆法尤精致

巳註上ニ見

接筆躁下一分一撥

躁下一分一撥

躁下一分ハ一撥乃点乃

形乃ヲし躁ハ形し撥ハ

一撥より下ハ平ニ成し

下平可

異本ニ可ノ字ヲ共ニ作ハナリ此時ハ下平ニ細ク作ハク筆ヲ引オサム義ナリ

接筆躁下一分一撥

躁ハ点乃形ハ下ニ可彼し

啄紀四点乃形し巳点ハ

ハくれ拓ヲ啄乃点し

○蔡邕永字八法啄点乃惟と和解しく云 七啄ノ毛纏機乃祖ヨリ一に永字乃牙七筆し撇と云どして啄と云い左ハ向く左ハ向く逆渋と如一左ハ向く脇と撥く左ハ罷い毛後疾しとき 往ニ啄い毛啄しる所也 啄ハ啄くらり たミ往ちどかー 小点と書付たちノ筆と使く右ハ向く遅渋こり て又右ハ脇と撥く左ハ罷い毛別後疾ハけりくちゃとしとき 往ニ啄ハ同く出く色と出ハ筆と使ハ色と異ふちい何ぞや論ふ云 撇ハ蔡信乃もし啄い勢ひ乃ハ同く色と出ハ筆と使ハ色と 往ニ常ふ鉄石乃ぬく乃ハ対ハ別 ま乃ハ対ハ別 ま乃ハ対ハ別 ま

▲此四字戲蝶点ヲ用

戲蝶

鎖巡緇眄

▲戲蝶三蝶戲柳

三蝶ハ巡ノ点ニ倣シ巡点乃ち之蝶乃戲也ハ極メ下ハ短ク名ヅクベシ

三蝶一様飛ノ果字下邊辰

巡ニ横間架正ニ筆法要清詳

巡点乃横間乃架ハ巡ノ点ニ倣シ

▲啄化巡点ニ倣ヒ

戲蝶

六頭要法
三雪一勢
上下俱齊
空無寛窄

▲巡点乃蝶乃戲蝶ハ巡ノ点ニ倣ヒ名付クベシ

六頭要法三雪一勢上下俱齊空無寛窄

六頭要法巡ノ上下六乃分ヲ肝要乃法ハ三ツ雪ノ勢ニ倣ヒ

戲蝶

巢

三蝶一様飛
果字下邊辰
巡横間架正
筆法要精詳

▲此四字木人点ヲ用ル字

木人

皇殷射鷸

▲木人立姿勢ノ

木人ハ巡ノ点ニ倣シ巡点ハ木人ノ点ニ倣ヒ下乃足ハ名ヅクベシ

隻字下腿短隄防鳥四点

隻乃字下乃腿ハ短く書シ右傍乃点ハ低ク下乃足ハ高ク名ヅクベシ

雇鳥一般高下脚各收歛

左点乃雇又右傍乃点ハ二ツ〳〵ニ書キ一般ハ高く書キ下脚ハ短く名ヅクベシ

▲啄化巡点ニ倣ヒ

木人

木人

鶴

直直

▲巡点ハ木人乃巡ノ点ニ倣ヒ

直直

隻字下腿短
隄防鳥四点
雇鳥一般高
下脚各收歛
○此註有上

字府之論曰七十三筆字圖一再結構七十二例虎牙点之次連鄰梁点鶯策化七点笑又七十二点筆勢圖除鄰梁点加啄化中ニ把啄化中戲蝶木人点加策化中ニアリ然有據非鎖説也

●右永字八法ニ倣ヒ七 啄化巡點ニ畢

自是●

永字八法之分八 捺化八点之合経 捺又三條

▲此四字三折点ヲ用ル字

遊魚 通達進遍

▲遊魚三折腰三折

遊魚三折腰ハ〜点ヲ以テ下ふるぶるし

横五玉案 竪爲鉄柱 建乃字撰乃字八皆五案乃点ヲ又竪乃一点ハ鉄柱乃点ヲ

法製遊魚 三折妙處

下ふたまたより遊魚と法乃字とく部〜く三折の奇妙あり下どあ〜ひたし以点捺化八点乃物し

▲捺化八点ヲ分一

遊魚三折腰

右十三字ハ口授ス

遊魚三折腰

建

▲以点ハ魚乃名中小巡ひく
之を以勝と形ぐめるるる
ふるの版ふ名ヲるし

魚頭平 魚乃頭ふのこ
どれハ平ら書し

魚背圓斜 魚背乃背ふ法とられまるく
まろくと斜ふ書し

一停頂三停魚肚四停魚尾三停

解 筆勢乃角し左注ス

横五玉案
竪爲鉄柱
法製遊魚
三折妙處

〔蔡邕永字八法捺点乃後と和解ふく云〕 捺点又撇点ト云 八ハ撇〜ハ捺乃

延ふ〜く永字乃筆八筆し捺とめ〜として撇〜云ハ紫運我行ふく速疾

と〜ひ〜ひ捺く撇行ふく原ふ出乃毛筋疾ふ〜とく〜 撇ハ捺し用

以点捺より左へ筆とひく撇閣ふ乃ふ〜ひく後ふる〜ふ 捺化八点乃延永

字乃筆八筆し捺とのつ〜て撇〜云ハ〜い筆嚢く運我行ふく運疾と

乃〜筆筋捺〜く弦引左へ出行ハ毛筋疾ふ乃ふ〜ひく遅滞疾の

ハ運筆牌乃乃筆乃筆法乃ふ〜ひ〜ふ乃ふ〜ひ〜ふ乃ふ〜ひ〜ふ

大〜ひし或ハ和解乃ふ〜ひ〜ふ

〔永字撇点如何乃和解ニ曰〕 撇ハ撇〜す疾〜く云右ふ法と

撇行ふく云閣ふ云右ふ法と 撇乃筆〜と云ハ〜ひ〜ふ

撇ふ日ふ法捺〜く筆と入〜 撇ふ〜れと撇〜と云ハ〜ひ〜ふ

ひ〜く〜ふ筆と撇閣ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ

〜〜〜 ○紙と撇ハ筆毛乃ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ

ふ〜ふと撇〜て後筆行ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ

法ハ〜〕 以撇ふ法ハ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ

筆ふ毛法捺〜く筆と入〜 撇〜く撇〜く撇〜く撇〜く撇〜く撇〜く撇〜く

撇ふて行〜ふ毛筆ひ筆ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ

〜〜ふ〜ふ或ハ筆と後ふ筆と撇〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ

○永字楷点隆録伝乃和解三目　楷ハ者と悟く早く遅く移うとうく
紐ニ楷ハ右ニ女偏ニ従がうとく除く遅ゆうとく小戒移し者と悟ひ智ひ
縫さ割ゆく者んと移ゆく後移り去乃ん又除く糸縫く楷小
相そくり行ん小ゆく和遅く移うとうし　和案紐れ、者と悟とん
先偏乃ゆとち拭く移ゆ行ハしとの頂

○永字楷点玉篇之伝乃和解三文　楷ハ羅蹟うして用接とき
陸ニ羅蹟とハ羅ハ初どうし頭ハ移先も也羅移く楷用く者とうへ
うし接ハさへうしもし異ゆ者く上にうじく移く用ゆし
▲支永字乃八法略く点接陸楷奥紙乃くう策紙うして悟つるゆ、
ゆのれ形る点小古今者法乃秘史これふうべうるうし秀くハ楷
月くハ紙移くハうれと熟し挑味とる時ハとゆうち
ゆ点ハ楷と仕遣ハ玉ゆ熟ハん嗚呼乃ハ於く奇ゆりと可弼

▲前結構七十二字例中菓化七点第六科牛梁点者却而有七十二点筆勢圖啄化四
点中而結構字與京文圖有淺入混雑者然有其所謂既前記之畢若結構七
十二字例啄化四点中戲蝶木入二点七十二点圖珍髣有菓化七点中今又若楷
化八点中金方鳴鴨曲直續節之六点拯之此加七十二点筆勢圖掠化十点中把結
撰七十二字初在掠化十点中屋角蛇頭疊鳥新月闘鶉荷五点加七十二点圖楷化
中掠化裂米髣八点然把除六点加五点也故於牛楷化闕二点及七点者也所久可尋

▲此四字漫遊魚点ヲ用

漫遊魚

趙越逢誕

▲漫魚一雫身一雫
漫遊魚ハ〆　うれうり
任乃ん下ふ和ゆ　今
再釈ふ及ゲ

二巳下邊共下空照上空
巽乃字ハ右ハ頭乃接ふ
二乃巳乃字ハ左ハ頭乃接ふ
下ふ共乃字ハ左ハ頭乃接ふ
巽乃字ハ右ハ頭乃接ふ
巳乃中乃れ白空と下の
撥接者左乃中乃白空
と指て空と右し白空
白空乃上乃白空と照映

走之稀々安　空々皆照應
それうとり　うう
書くうと紀し稀乃字
ふ白乃ふ紀し稀又字乃百
点乃変紀乃ふ乃ふ紀と可乃り
とあうとうとれり

▲楷化八点之中二

漫遊魚

平　斜　香　下　斜　香

漫遊魚

選

▲此点ハ選くる海ゆふ文乃
遊海乃字乃ふ仮字ゆ人ふ
多うとし
平　斜香　仮名ふ用ゆ
多ゆふうとく
下斜香　上ふ準和ゆ

二巳下邊共
下空照上空
走之稀々安
空々皆照應

△此四字金刀点ヲ用ル字

金刀

大皋莽綻

△金刀假借金刀

金刀ハ、それなりに形乃わくかたうり用く石つ金ハ貨貝乃仰し釈下ふ徒とるべし

尤邊結搆密右邊犬字小二字相併行躲閃方纔好

たもと衣偏二ヒ一字ふ金ヲ獻乃字とかしたり右へ躲閃一く引分られハ方ふ今纔ふうしし色たハ用ひかく花ハ用もくあきゆへた右つりわひひつくしとゆへ字ハ金刀ハ稼紀ありて字ハ金刀ハ用ハ字乃用ハ字

△稼紀八点ヒ牙三

無法

金刀

金刀

獻

△此点乃躲閃金乃用ハ字乃左ふ右辺ろし

左法 上ふ準ずべし

右斜行 ちがひ右へ曲ゆ行し

尤邊結搆密

右邊犬字小

二字相併行

躲閃方纔好

△此四字鳴鴨点ヲ用字

鳴鴨

交夜技散

△鳴鴨眞似鳴鴨

鳴鴨ハ、それも此点乃形乃鳴れやふ点ふくれ似る故名づくも釈下ふ徒とるべし点乃以ハ斜ひ行て下ハ斜ふ下ふくく書し

立人寫玉案 日字安勾鎌

是立人ハ案乃点となり日字ハ安乃中ふ勾ひ乃丿それとかるし勾ひハ掠ひ乃字三点し

鳴鴨要筆法 空眼要周全

勾ひ乃点乃眼ふ鳴鴨ハ、それとそつく更とるべし右辺ハ乃字ハ更乃字ハ

又鳴鴨ハ点ハ眼ハ空ハ眼ハ要ハ周ハ全ハ乃

▲此四字直点ノ用ル字

直

及 級 紙 建

了 無勾為直

直ハ了ニ引ケ
ハ直ニ点ヲ射ル
時点ノ了ニ点ヲ射ル
又建ハ拳ニ引ク
了ニ点ヲ
ト云ヒ
ト云ヒ
ト云ヒ

▲此四字續点ヲ用ル字

續 母梅海蛾

▲女中ノ一画為續

女中乃一画ハ母ノ心女の中と門あてゝ之一画なり心一画と中おてゝ之一画とてゝ母くふあてゝ之と様しらし母乃字ふれ射して見よ

女中一画為續　此字中有二画象形之辭無為

女乃中の丿心一画つゝ之を為続とゝし心一画ハ之を中ゝ之と形ちあり必ゝ之ゝ

ゝ之れ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ之ゝ

▲孫紀八点之第七

續

續

▲也母乃字ハたゝ一文字れとゝんゝ同用ゝられ此之

女字中一画為續

也母乃字の中の一画ゝ心ゝ

ゝ乃ゝ字ゝ中ゝ之ゝ一ゝ画ゝ為ゝ続ゝ

書べたしあすゝゝられゝゝ

御ゝ書ゝゝ不ゝ可ゝ

。七十二点第七乃字のゝ

母即無字　母父母之母分ニ

續斷　母母二字ノ註也

女中一画為續

女字中有二画

象姙之胎禁止之辭無為

。七十二字結構乃例のゝ

▲此四字斷点ヲ用ル字

斷 母敏毎貫

▲女中ノ二点為斷

斷点ハ二点ゝ之れ女中乃二点ゝ之あゝ乃注ふゝ

女字安二点象兩乳之形故為又母之母

女字乃二点ハ二点ゝれゝ

母母ハ繼斷ゝ之ゝ

ゝ之母ゝ用ゝ乃ゝ母ゝ斷ゝ

ゝ之ゝ用ゝ乃ゝ之ゝ点ゝ

母母ハ繼斷乃依ゝ也

一所ゝ附ゝ乃ゝ母ゝ

同訳同注ゝ乃ゝ再ゝ

母ゝ也ゝ母ゝ

ゝ母ゝ乃ゝ之ゝ

ゝ母ゝ乃ゝ之ゝ

ゝ母ゝ乃ゝ之

元禄十貳歳

卯九月上旬

大坂　屋金屋太兵衛
　　井筒屋伊兵衛
浪華　東心斎橋
　　敷屋源兵衛

石岡氏

武定　石岡氏

公方様

元禄十貳歳
卯九月上旬

大坂 屋金屋長兵衛
井筒屋伝兵衛
浪華 東心斎長兵衛
教学堂孫兵衛

石国氏

武定 石国氏

仙方様